第四百六十七號目次

◎口繪

◎社說

新刊のことば◎政黨內閣◎第一等の事◎室家主義非なり◎永久の身代、長年の壽命(下)◎鐵滑、母の乳を止む

◎家庭

家庭敎育の根底◎經濟の上手下手◎家風は如何んせんかと問へ◎嗚呼しんきくさし◎夫婦取換て見よ

◎講義

老子女訓

◎隨感

活を入るゝ事◎力の出る事◎登高自卑◎勇猛心◎托鉢◎憫れむべし人間◎天王寺の穴堀◎舞姬◎人事意料外◎學風必しも憂ふるに足らず

◎雜錄

橫井小楠(海舟先生談片)
かの山(新體詩)三輪花彰
目下窮民の實狀(觀湖庵主人)
孤兒の友ジヨウジ、ミウレル氏

◎時文

續氷川淸話◎英雄論◎鬼貫全集◎ウイラード孃小傳◎賴山陽及其時代◎新小說

◎片々◎時報

社告

◎本誌は每月二回即はち十日、二十五日の兩日を以て發行す

◎十日發行の分は稍や平易實際の記事を專にし、第一、家庭の整理改善に益あるべき事項を主として、其他、文藝、史傳、問答等の諸欄に重きを置き、二十五日發行の分は、女學宗敎及び敎育等に對する吾黨の卑見を陳述し、大に世上君子に問はんとするを旨とす。

◎單に十日發行の分のみ又は廿五日發行の分のみを指定して所望せらるゝものあらば其の需めに應ずべし

●女學雜誌定價表●

前金	壹冊定價 拾錢 半年分定價 壹圓拾錢 一年分定價 貳圓 (內國無郵税) 代金は惣じて前金にて御注文ありたし◎年來引續購讀の諸君にて前金切れ候共御斷無之間は引續き發送するとも可有之事
廣告料	一行(廿七字詰)一回 前金拾錢 同 三回以上 一割引 同 六回以上 二割引
送金	送金は東京駒込郵便支局に宛て小爲替にせられたし◎郵便切手にて送らるゝ人は惣べて一割増にて計算せられたし

發行兼編輯人 巖本善治
印刷人 布川孫市
東京府北豐島郡巢鴨村字庚申塚二百四十六番地
發行所 女學雜誌社
東京市麴町區下六番町六番地
發賣所 女學雜誌社支局
東京市神田區表神保町
大賣捌 東京堂
東京市牛込區市谷加賀町一丁目十二番地
印刷所 株式會社秀英舍第一工塲
(電話本局十九番)

女學雜誌社出版書目

巖本善治著 **吾黨の女子敎育** 正價金十錢 郵税金二錢

巖本善治著 **公娼可滅** 正價金三錢 郵税金二錢

島田三郎、植木枝盛二君合著 **廢娼演說** 正價金三錢 郵税金二錢

櫻井成明君譯 **腓立比物語** 正價金二十八錢 郵税金六錢

橫山雅男君著 **婚姻論** 正價金十二錢 郵税金四錢

若松賤子君譯 **小公子** 正價金三十五錢 郵税金八錢

故若松賤子英文集 **巖本嘉志子** 正價金六十錢 郵税金六錢

布川靜淵、故小此木秀野君合著 **俳諧史傳** 正價金二十七錢 郵税金四錢

故鈴木弘恭君述 **百人一首講義** 正價金二十八錢 郵税金四錢

同 **文法口授** 正價金十二錢 郵税金二錢

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

女學雜誌

明治三十一年七月十四日發兌

第四百六拾七號

社説

新刊のことば

女學雜誌第四百六十六號の論説は、如何なる箇所か範圍を脱しけん、忽然として『自今發行禁止』との嚴命を受たり。抑そも、此の雜誌『女學』の名を題して、表面の所ろ兎に角、しほらしげに見ゆるの故か、もしくは他に別格の扱ひありての故か、從來其筋の監督至つて膺揚なりしかば、端なくも規定を逸して斯る不始末とはなりぬ。明治廿一年の頃、なまじひに伊藤伯を論じ、數月の間だ發行停止を命ぜられしより此方、一と月として吾が讀者に見ゆるヿを廢せしヿはなかりしに、文壇彌よ自由となれる今日に方りて、數週間、吾が愛顧の知人に背むきて疎濶禁ぜざるの遺憾を惹き起すに至れるこそ、一代の恨事なれ。然し乍ら、夫々の届方一々完結して、恙なく、女學雜誌の名を襲そひ、依然たる舊態をもて再たび諸君に見ゆるに至れるは、限りなきの慶こびとす。諸君の知を賜ふや久し、何んぞ更ためて吾人の所懐を訴へん。希ふらくは、益す愛顧を垂れ、微々たる一社の熱望をして少しく發揮貫徹するの途を得せしめ玉へと望む。

夫れ、前一ヶ月間の推移は、近時稀有の奇觀を呈したり。經路は甚はだ短かゝけれども、變遷は至つて多く、宛がら一舟ナイアガラ瀑布の落口に臨んで、急轉落下、千丈万景の變化を來せし如し。其の由來は久しけれども、其の現象は倏忽たり。誰か、眼を刮つて其の奇景に快哉を叫ばざるものある。盖し、大勢の推移は磐石の、轉ぶが如し。動かすは容易ならず、既に動いて其の轉ぜんとするや、亦た人爲能く制むるヿ能はず、何ぞ其の豪爽なるや。

女學雜誌の一新は、此の一新の氣運と前後せり、其の緣し淺しと云ふ可らず。之より更ためて其の論調を變ずるの用なき

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

は勿論なりと雖ども、亦自から其の觀景を擴張するとを得んか。隨感時論の少しく若やぐは之が爲め也。讀者願くは之を恕るせ。

政黨内閣

我國、未だ政黨と稱するに足るものあらず。何んぞ政黨内閣の樹立と言はん。

夫れ、黨は派なり、全躰にあらず。國民皆な合わば、何んぞ之を黨と言はんや。既に、國民全躰を以て友とせず、其の一部分を以て吾黨となすときは、識見必らず僻せざるを得ず。王者の敢て爲ざる所ろ也。然るに、文明の國大率ね皆な政黨あるは何故ぞ。

蓋し、其の政黨は、今の所云ゆる政黨の似きものにあらず。凡そ、眞の政黨は必らず政綱を有し、其の政綱は必らず國民幾分の不同意を受くるものたり。既に同胞の不同意を受るに係はらず、其の必らず國家に利福たるとを信じて斷乎守張す。此に於て、我の政綱あり、彼の政綱あり、勢ほひ黨與を分ちて、國民を派分す。素と必らずしも望む所にあらずと云ふと雖ども、政見の相合はざるや即はち止むとを得ず。古より忠良の士の皆な涙を飲んで之を敢てせし所ろ、何んぞ必らずしも西洋文明國に於て初めて此の新例ありと言はんや。

故に、國是は決して政黨の由て分るゝ所にあらず。只だ實際政治の經綸に於て相ひ分るゝとあり。即はち、政黨に政綱の欠く可らざる所以なり。

然るに、我國從來の政黨なるものに、未だ曾て政綱と稱するに足るものあらず。現に去月新たに勃興したる憲政黨の如きすら、左の如き無意味の十條を擧げて其の政綱となせり、

皇帝を尊戴し憲法を擁護すること
政黨内閣を樹立し閣臣の責を明かにすること
繁文褥禮を省き行政の整理を計ること
歳計の均衡を保ち財政の基礎を鞏固にすると
中央の干渉を省き自治政の發達を計ること
外交上權利を保存し貿易の隆盛を期すること
陸海軍備は時機に適合する程度に擴張すること
運輸交通機關の完成を計ること
富源を開發して產業の發達を期すること
教育を盛にして學術技藝の發達を計ること

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

試ろみに思へ。此の十條の宣言に同意せざるもの何處にある。只だ僅かに一種新様の意義をほのめかす如きは、其の第二條に於て『政黨內閣』の四字を挿入せしと是れ耳。

然りと雖ども、政黨內閣を樹立せんとを欲する其の政黨に、何等特殊の政綱もあるとなし、之豈に奇談にあらずや。人或ひは辨じて曰はん、之れ政黨內閣に反對する超然內閣派に對する一種の政綱なりと。左れど、所云ゆる超然內閣論なるものゝ言ふ所ろ、未だ明らかに聞くとを得ず。但だもし彼等の言ふ所ろにして、朋黨を嫌ふと言ふにあらしめば、之に對して政黨內閣を樹立すと言ふは何等の答辨たると能はじ、何んとなれば、政黨は即はち朋黨にあらざれば也。もし彼等の言ふ所にして、政綱を有する政黨に反對すと言ふにあらしめば、之れ常識なきの論なり、何んとなれば、政綱を其の政綱たるの故に反對すと言ふは、殆んど道理なきとなれば也。此の故に、超然內閣派の言ふ所をして、政綱なき私黨を不可とすと言ふにあらしめば、今の憲政黨たるもの其の漠然たる政綱の中に、單に一條の新文字を挿入し、曰く政黨內閣を樹立すと揚言せしむるとも、未だ他に何等特殊の政綱を立てざる以上遂に亦た新らしき說明あるとなし。其の論は巡環す、其相爭ふは、子供のイタチコッコの如し。吾人は、遂に憲政黨の政綱なるものを聞くを得ず、之を不可とする反對派の守張する所の何事たるやをも亦た聞くを得ざる也。

凡そ眞に政黨を樹立するに意あらば、憲政黨たるものは、其合立の動機に鑑み、當に『非地租增稅』の一政綱を立つべき也。而も能く之を爲さず、茫漠たる宣言の下に、行掛りの合同を遂げ、單に情感の黨與を結ぶ。これ豈に王道と立憲政との同に認可する政黨なるものならんや。

曾て聞く、伊藤侯、政府黨組織に意ありと、吾人歎じて曰く、之れ亦た何の黨ぞ。憲政黨の政綱は國民皆な是とすべきもの也、政府何の名に於て之を不可とするかと。遂に其の計畫は挫折したりと雖ども、一應は其の發企ありしと言へり。嗚呼、諸君の立憲政躰を見ると何んぞ夫れ輕きや。

吾人此に於て、憲政黨を見て政黨とせず、たゞ之を政友とす。此の政友相合して一旗幟を立て、其の頭領新に內閣を組織して、機運一轉せり。たとひ、もろ〱の慶事之より兆すと雖ども、之を以て政黨內閣の故と言ふは抑そも非也。吾國

Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

未だ大政黨あらず、何んぞ能く政黨内閣あらんや。

然るに、山縣侯及其の門下、並に國民協會の一派は、生平、深く政黨を嫌ひ、今回の内閣を以て政黨内閣とし、亦深く嫌惡すと傳ふ。之れ兩ながら不可思議とす。現内閣の政黨内閣にあらざると既に前論の如し。抑そも、政黨を嫌ふとは何の意義ぞ。政黨は政綱の黨なり、政綱を嫌ふとは抑そも何の謂ひぞや。

但だ夫れ政黨なるものにして政綱を有せざれば即わち私黨なり、私黨の害は古しへの朋黨に於て之を知る。王者素より採らず、文明國民亦之を用いず。獨り吾同胞之を立憲政躰の名に於て揚然として施こさんとするは何事ぞ。

然りと雖ども、事物の推移は截然たらざるを常とす。晝夜、其の分れを知らず、睡不睡反つて妙味を其間たに存す。今の憲政黨なるもの、私かに稱して政黨と言ひ、今回の内閣を以て政黨内閣の最始と言ふ。其の條理に於ては寧ろ笑ふべきものありと雖ども、其の實勢に於ては優に一段の新紀元を劃せり。人或ひは稱して第二維新と言ふもの、蓋し必らずしも過稱にはあらざるべし。

第一等の事

大機一轉し、世運維れ新たなるの時は、正に着眼第一等の經綸を要す。苟しくも大綱先づ立たば、小規自から擧る。若し先づ第一着手の眼識を誤まるとあらば、將來の事乃わち知る可き也。横井小楠曰く、

惣じて天下之事、禍を轉じて福と爲し候は一通りの君相の出來させられ候事にては無之、必らず非常卓越の名賢君相水魚一致の時に被行候ものにて、其他の人にては成程大變に當りては心動じ、ごふなりと爲んと欲る意念有之候得共、元來天下經綸一定明白の見識無之候故、第一等の處に押し出候事は出來不申、衆人同じく見る所枝葉小輔の號令、大有爲の機會失ひ、果は何の譯にも成り不申、依然たる光景に歸し申候。眞の誠意なく、利害の一心にては、事を爲し行ふの上、總て表立候筋は嫌ひ、必ず密に手を附るの事に相成申候、此處即ち智術の的面にて隱然たる險阻の模樣天下の人眼識有之ものは既に見破申候。此一處の違ひ申は余躰心術の大違にて決て天下第一等の事を被成行候御心底とは存じ申さず候。惣じて正大明白と申も眞僞二つ有て世の所謂ゆる慷慨者抔は唯だ一偏し事を爲さんと欲し無理有理をわきまへずしてひたすら其事を遂け得んと懸り候は是れ其人不見識なるのみならず其心術專に功名の上に馳せ候て義理正大の筋を表に押立候聲にて事こそ替れ戰國山師者共と同樣の聲にて今日に於て深く恐るべき事に有之候。

若し今日に方りて、能く此の大道を實行し得ば、天下の事何ぞ爲しがたしとせんや。

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

時報

◎地久節　五月廿八日宮中に御宴を設けさせ給ふの御例なるに、ことしは伊勢大宮の御事をおぼし給ひて中止遊ばされしとは承はる。

◎赤十字社揀看護婦　は廿九年以來募集し本年にて百三十八名となれり之にて最早完備したれば一時募集中止の由。

◎綜藝種智院　大坂の同校は眞言宗に屬す今回府立高等女學校と同一の程度に進むべしと。

◎夏季女子講習會　東京府教育會にては來る七月二十五日より八月十四日迄三週間神田橋外東京府高等女學校内に於て女教員及一般女子の爲めに國語（講師渡邊政吉氏）家政學附保育法（講師後閑菊野氏）裁縫教授法（講師谷田部しゆん氏）の講習會を開くと云ふ。

◎横濱高等女學校設立建議　横濱市教育會に於て横濱學校長三島豊太郎氏横濱に高等女學校設立の必要を說き其維持は授業料を以て支辨し得べきに付設立費の支出を市に建議せんと委員を設けて調査することとなれりと。

◎補缺入學試驗　女子高等師範學校に於て文科及び理科生に缺員あり試驗の上凡二十名入學を許すと云ふ資格は師範學校女子部及修業年限六ヶ年の官公立高等女學校卒業若くは之と同等の學力を有する者品行方正躰格健全年齡十七年四ヶ月以上二十二年四ヶ月未滿にして夫を有せざるもの、入學出願期日は六月末日限り試驗は七月四日より四日間執行す。

◎婦人矯風會の禮狀　横田ノブの事件につき時事新報が兩回の社說を揭げたるに對し日本婦人矯風會々頭矢島カヂ子より左の書狀を送れり（六月廿六日時事新報）

横田ノブ女の犯罪につき道理人情を盡したる御議論時事新報紙上にて拜見仕候感服仕候私は此に日本婦人矯風會員千三百餘名を代表し貴社が常に我日本婦人の爲めに正理を唱へ給はるを謝し奉り候御承知の如く我婦人矯風會は日本婦人の品位を高潔にし男子の補助者たるべき天職を全うせしめんとするものにて之が爲めには婦人に對する偏頗の法律を改正するを必要とし年來帝國議會へ請願書を提出致し居候へども不幸にして未だ採納を得申さず遺憾の至に御座候是等に關しては最も貴紙の高論を仰ぐ所に有之何分我々微力なる婦女子の爲め御援助の程偏に奉願候不備

◎日本婦人の壽をなす　ノブの犯罪に關する本紙の社說には既に報知新聞記者の同意を表するありしが去る二十六日横濱に開きたる内外新聞記者懇親會の席上にて毎日新聞社長島田三郎氏は本社の出席者に向ひて頻りに右社說に同感の旨を語り津田仙氏も傍らより之を賛し頓て會食の時に至りイーストンウチールドのシロダ氏の發言にて一同日本婦人の爲めに祝杯を擧げ次で本社員は横田の件に關して演ぶる所あり本件は圖らずも内外新聞記者の注意を惹くこととなれりといふ（時事新報六月廿八日）

●赤十字社女子社員の總會（神奈川縣支部）　同會は去る廿六日午後二時より横濱小學校内に擧行せり同縣女子社員一千五百名の内當日參會したるは無慮八百五十名許にして小松總裁宮妃殿下には左の御諭旨を賜はる。

今日日本赤十字社神奈川縣支部女子社員の總會に臨み博愛慈善に富める諸氏と相見るを得たるは賴子が深く喜び思ふ所なり近來社業年を逐ひ日を累ねて振ひ起り之に隨ふて本社又は各支部に社員總會の催しありしも其數を知らざる程なり去れと女子社員の總會を開きたるは實に此會を以て嚆矢とす扨女子社員に最も必用として望ましきは篤志看護婦人會是なり女子社員が看護事業に從ふは婦人の特性として眞に適當なる業務なるべし二十七八年役の實驗に依りても亦其然りしを信ずるなり

故に他の支部に於ても同會を設くるもの續々相踵で起る機運に向ひぬ神奈川縣支部に於ては未だ婦人會の設けなきも社業に盡さんとする精神に乏しからざるは今日の開會を觀ても昭かなりと云ふべし此篤志の諸氏幸に此好機を失はず本社篤志看護婦人會神奈川縣支會を組織あらば亦一層の美事ならずや諸氏能く此意を汲み愈〻進みて社事に盡されんことを望むになん

尋で妃殿下は今回特別社員に列せられたる大谷榮子渡邊多滿子箕田保子の三名へ各自に特別社員章を授與遊され式終り御歸京あり殿下より吉備樂山本正三箏曲の山勢松韻へ金十圓の御下賜あり社員へは紀念品及び茶菓の饗應あり散會せしは午後六時半頃なりき。

◎山形高等女學校　山形高等女學校は去廿六日開校式を擧げ入學生徒百七名あり同二十八日より始業せり。

◎裁縫科加設の申請　長野縣東筑摩郡片丘村は尋常小學科卒業退學者及び學齡外の女子を教授するの目的を以て片丘北尋常高等小學校内に裁縫科附設の申請に及びたりと云ふ（信濃毎日新聞六月二十五日）

◎女子訓導養成所　現今小學校には多く裁縫專門の教師を雇ひ居れるが專門の教師を雇ふは町村の經濟より云へは甚だ不便なるを以て今回三野豐田郡教育部會にて女子の准訓導を養成し普通科と裁縫科を兼務せしむることとせは一人の雇訓導を減し得可し迚該養成所を設立する事となりしが經費は各町村より補助する筈にて生徒も已に三十名許り募集し得たりと（香川新聞六月十五日）

◎裁縫科講習會　山口縣都濃郡に於ては本年小學校の夏期休業を利用し郡内各

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

小學校女子裁縫教員を召集し夏期講習會を德山に開らき裁縫科の教授方法を講究すゝ事に決したり（馬關每日新聞六月十日）

◎貞婦談　佐賀市野口重吉妻よし（佐賀自由六月十四日）◎大分縣黑岩某妻シヲ（東京朝日新聞六月廿四日）◎横濱石川仲町一丁目廿六番地高木長吉妻お芳（萬朝報六月廿四日）◎中津姫路町墨吉熹四郎妻くは（二豊實業新聞六月十八日）◎香川縣鵜足郡坂本村篠畑嘉藏妻くら子（紀伊每日新聞六月十一日）◎尾州西春日井郡西枇杷島町淺野吉兵衛未亡人おすう（新愛知六月廿四日）◎熊本縣飽託郡高橋町小山又熊氏妻菊子（九州日日新聞六月二十三日）

◎日本女子の好成績　さ題し桑港クロニクルに柳澤よれ子が今度カリフホルニア大學を卒業し、バチエロル、チフ、レタースの學位を授けられたるを記載し、現に廿五歲なるが九歲の時兩親さ同もに米國に渡來せりさ記せり。

◎松井節彌女史　は米國チゴンツ女子高等學校を卒業し、七月七日發桑港出帆の船に搭じて歸朝のよし。

◎上海女學校　去年十二月の本誌に預告せし上海女學校は彌よ五月卅一日より開校し、別に女學報さ名くる雜誌を發刊するよし。

片々

◎成遲敗速　成るのは難くして破るるのは易いのである、先づ支那の旅順口を造るには數千万圓を費やして十五年掛のつた、而して僅か二十七時間に失つた、成る何ぞ難き、敗る何ぞ易き（大隈伯、在野同志懇親會席上演說の一節）

◎何故に男女を區別するや　男子さ女子さ相約束して夫婦さなりし上は其愛情正に同一なる可き道理にして夫ある女子が誓に背いて他人に情を通ずるを不都合さすれば妻子ある男子が同樣の擧動に及ぶも矢張り不都合に相違なく單に女子の一方にのみ制限を加へて男子の方を不問に措くは權衡の平を得たるものに非ず畢竟男子が女子より强きを頼みにして男子に都合よき法律を定め更に其蔭に身を隱して我儘を働かんさするものに過ぎず我輩は之を許して卑怯の擧動さいふを憚からざる也（福澤翁時事新報社說）

◎出產さ季節　上流社會は授胎の季に影響を受る所少きも下級は生活の狀態上其關係著し。產兒は富の度一段を下る每に益々其數を增し危險の度は漸く少きを加ふ。東京にては概して秋季に出產多し、即ち授胎は十二月より二月迄の間に相當せり（河合利安氏說）

◎慘酷に慣る　維新前京都にて暗殺流行せし時は雛妓の如き者まで毫も恐れず

彼是評判するに至り、十年西南の役田原坂あたりは近邊の少女等死骸縱橫鮮血淋漓の間を往來して團子餅などを賣りあるきたり（高島正風氏の談、國民新聞）

婦人の德　福音新報六月廿四日（德富猪一郎氏）
本邦婦人の位地　報知新聞社說（六月廿三日）
女學校生徒同盟罷業　近江日報概言（六月廿一日）
裁縫場めぐり　高知日報寄書（六月十一日以下）
女藝驚久（の逸事）　京華日報（六月十八日）
化粧の注意　大坂每日新聞（六月十八日）
家庭教育（上、下）　大坂每日新聞（六月十一、十二日）
横田ノブの犯罪につきて　時事新報（六月十八日）
横田ノブの家庭　時事新報（六月廿四、五日）
横田ノブの裁判　報知新聞（六月廿四日）
横田ノブの父　國民新聞（六月廿五日）
ノブの控訴に就て　時事新報（六月廿三日）
新婦難　時事新報（六月廿四日）社說
何故に男女を區別するや　時事新報（六月三十日）社說
革命來（汝ら家庭を諦視せよ）　日本（六月廿三日　隨軒氏）
日本の出產さ季節　統計集誌第二百四號（河合利安氏）
世界に於る女子の社會的地位　天地人第六號（六月二日）
貞潔の德について　六合雜誌第二百十號（本田增次郎氏）
「妹脊山婦女庭訓」について　早稻田文學第七年九號（饗庭篁村氏）
踊さ女子教育　日本主義第三卷第十三號（竹楠生）
兒童矯弊論。或る母の日記。家庭訪問日誌。（教育實驗界第一卷第七號）
現今の女子教育論

◎女學雜誌の評　香川新聞六月五日曰く、本誌由來感情的文字に富む從て詩的趣味の津々たるものあり名は女學誌なるも有髯男子の愛讀を得んは必せり通常の女生用の雜誌さ其趣を異にし一頭角を拔て高尙なる好雜誌なり。秋田魁新聞六月十四日曰く、隨感の短文には何れも一種の觀察ありて尤も誦すべし。女子座右の好雜誌（岩手日報六月十四日）。現社會の一砭針さ爲るべきもの（西肥日報六月十四日）。警世の言多し（山陽新聞六月十一日）

社告三則

◎去月十日分發行女學雜誌既に出來上りたる際、出版禁止を命ぜられたるに付、其後夫々屆方を結了し更めて今日今號を發兌するに付、之を下に添えて出版す。記事の少こしく時節に後れたるものあるは之が爲めなり。

◎如例、每月、**十日、廿五日**の二回に發行す。其の十日發行の分を少こしく平易實際にするの方針は、從前と變りたるとなし。

◎各地女風社會學研究の答文、並に寄書到來せるもの少なからず。次號以下追次に揭載すべし。寄贈の諸君之を諒せられよ。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

女學雜誌

第四百六拾七號

明治三十一年六月十四日發兌

社説

室家主義は非なり

知る者は言ず、言ふ者は知らず。騒々しきは心の落居ぬ證しとて、古しへより淺き瀬のあざなみを輕んず。彼の主義主義と喧しましく言ふ人の存外に主義に軟らかきこと、一つの物笑ひとはなれ。凡そ眞に能く主義を貫ぬくものは、左して主義呼はりをすることの稀なるもの也。

近き頃より、教育に國家主義と云ふを痛論すること流行せり。即はち、國家を中心とし、基本とし、理想として教育を施さんとする也。其人々の思ふらく、斯してこそ國家現今の必要に應じ、吾帝國を隆盛にすることを得べけれと。其の識見の淺墓なること驚くに堪へたり。玆に人ありて、余は吾一身の利益を計ることを主義とすと宣言し、其の言動の惣べてを此の主義に合はせんには、世人の之を見る果して如何ん。蓋し世人は皆な嫌厭し、之を擯斥して一顧だに與へざるに至るべし。即はち、吾一身の爲にすとの主義は偶ま以て其の一身を害することとなるに非ずや。夫れ、國家の列國に對するは、個人の衆生に對するに同じ。國家獨り嘯ふきて曰く、吾國民の主義は只だ吾國家の爲に計るにありと。之れ豈に眞に國家を愛するの道ならんや。吾身を愛せんとするものは、先つ我身を獻す、此を以て我身立つ。我國家を愛せんとするものは、先づ國家以上更に大なるものあることを識認し、吾が國家をして、之に獻寄せしめ、之に利益あらしめ、之に必要あらしめ、遂に天下をして吾國家を必須するに至らしむることを力むるを要す。苟くも然らざれば、之れ國家を愛するによりて國家を危くするなり、豈に之れ眞の愛國ならんや。回顧するに、古來國家を危ふくしたるものは、皆な愛國者なり。愛國者、國を愛して而して之を亡ぼす、人世の恨事此に至つて極まれりと言ふ

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

べし。慈母、子を鍾愛して爲めに之を殺す、忠臣、國を熱愛して爲めに之を倒す。果して然らば、愛は即ち賊にひとし、人間の遺憾此に及びて何等の悲慘ぞ。

彼の男生の爲に國家主義を叫ぶものは、女生の爲に室家主義を說く。曰く、女子の本職は室家を守るにあり、故に、女子敎育の方針は總べて此の主義に準由せざる可らずと。即はち室家主義の說あり。嗚呼、之れ單に國家主義を說くの愚と同日の比にあらずや。室家を究極の理想とするものは、室家を無上の世界とするもの也。此の一少世界を、一大天地となし、あらゆる女德を此の主義の爲めに型造せんと欲す。これ豈に室家そのものの爲にだに利益ならんや。よく室家を調ふるものは、室家以外更に大なるものあることを識認するに初まる。よく室家に於て其の良人に內助するものは、室家以外に於ける良人の大事緊要なるものあることを知るに初まる。室家の外に別に杳として天地あることを知らしめず、室家の外に高として別に大事あることを知らしめず、而して此の狹隘淺陋の一女子として堂々たる大丈夫に內助せしめんと言ひ、此の私慾我儘なる室家主義の人をして宏たる人世の間に能く其家を守らしめんと言ふ、是れ豈に眞に室家の重んずべきことを知るものの勸誘ならんや。

故に、室家を第一位とせしむるは、室家を破らしむると等し。室家の外、一大世界あることを知らしめざるは、男子の事業を妨害せしむるにひとし。男子大に成すあらんとする時、能く之に同情を表することを得るの女子は、室家以外に一大事あることを知るの故にあらずや。此貞烈なる內助あらしめんことを希望して、而も其の敎育に室家を無上とするの主義に偏せしめんとす、眞に敎導の愚にあらずや。

此を以て、室家を限りなく愛するものは、室家を破るもの也。時としては室家を顧みざることあるほどの識見を得せしめて、而して后ち初めて室家を適當に調理することを得せしむ。國を亡ぼすものの愛國者なるが如く、家を亡ぼすものをして、貞德ある婦女子たらしめんとするは豈に女學者の希望ならんや。左らば則はち所云る室家主義なるものの實は女學の賊たることを知らずんばある可らず。

昔しは、勇士、家を棄て、戰場に馳驅したり、此を以て其家勳賞せられ、長年の爵位を得て万代に屹立せり。子孫此家を

棄つるを知らず、只だ此家に拘泥して、旨として此家を守らんヿをのみ主意とす、此に於てか、遂に其家を倒すヿ多し。嗚呼、婦女子をして室家を愛護せしめんとするもの、須からく此の情理に鑑むべし。單に室家をのみ重んぜしめんとする之れ豈に室家の利益ならんや。人を敎ふるもの、先づ此般人事の機微に徹せんヿを要す。

○永久の身代、長年の壽命 （下）

◎日月梭の如く過ぎ、青年忽まち白頭翁となる。賴みがたき朝露の命を賴みにして長いきしても、人間遂に死せざるはなし。茶毘一片の煙、北邙山下に斷續して、消て其の行く所を知らず。さて〳〵果敢なきは現世の人の壽命かなと、觀ずれども〳〵尙ほ生命ほしきは吾等の常識なり。近年、生理衞生の理論甚だ騒がしきは此の故による。

◎此の理論騷々しくなりてより、昔これなき種々の心配あり。人の躰は、窒素質、蛋白質、澱粉質、其他何々質と云ふ云々の成分より組織せらるゝものゆゑ、此の成分に欠乏を生ずれば自から倒るるの外なしと心配し、食物、飲物に、滋養滋養と云ふ注文甚だ嚴しくなれり。之が爲めに、料理に影響を及ぼし、昔に曾てなかりし滋養質の吟味八釜しくなり、隨がつて家内經濟に莫大の關係を及ぼしたり。之は文明流に相違なけれども、扨て其の文明となりて、人の躰は實際丈夫になりたる乎と云ふに決して然らず。躰の大きさ、肉の締り、骨の逞ましさ、一つとして古人に及ぶものなし、健康なる精神は健康なる身躰に宿ると云ふを元則とし乍ら、扨て其の健康なる身躰は今になくして反つて古へにありと云ふは何事ぞ。之は、人事いよ〳〵複雜となり、人の思慮を要すヿ莫大にして、昔しの如く淡泊ならず、隨がつて其の身躰を勞するの度、昔しに何層倍するの故と解釋し、夫には今ほど衞生に注意すればこそ漸く其の必要に應ずるなれ、もし今の如き時勢に昔しの如く不養生なれば、人忽まち倒れなん、倒れざるとも、今人より尙ほ一層に薄弱となるべしと論じ、大いに今の衞生說を辯護するが普通の流行なれども、未だ容易に承服しがたき所あり。

◎惣べて人生の活務には、氣合ひと云ふヿを第一とす。氣に

合ひ、氣に滿ち、氣の活潑に働くやうにならざれば、物事は皆死物となるべし。幾百卷の書を讀み盡し、幾千條の理を心得たりとも、肚に融化して、氣に合するほどとならざれば、吾が本躰のものとはなりがたし。躰の衞生の事も此の道理にて、なまじひに外物を添加することを必要として、肝腎なる氣合の事を後にするようにては、身躰の强健を得がたし。衞生〱々々と氣にして、氣を屈し、先づ肝腎の氣を挫き乍ら、滋養を腹一杯に食ひたりとて、効能はある可らず。玆に、精神の萎靡したるものが、其の智識、財産を活用することの出來ざると同じく、氣力一と度屈すれば、惣ての滋養物は殆んど無益となるべし。

◎左らば、衰弱したる人、病める人などに滋養物は効能なきかと言ふに、固より然らず。彼等が躬から心配して滋養物を所望し、之さへ飲食すれば、躰に力が着くと信仰する、其の信仰は一種の氣力となり、此の氣力先づ動きて次第に元氣を引立つるに至るなり。故に、其の品の成分、實際、左程の滋養なくとも、滋養があると信じて飲食すれば既に其の効力は現然たらん。ましてや、實際、滋養質に富み、容易に人の肉力を增加することの出來べきものたるをや。固より之を無益なりとは言はぬ。

四

◎但だ懼るべきは、一方に滋養品を信ずるの割合を以て、之を欠く時の心配の度に過ることである。之を欠けば、最早躰の養ひは全たく無くなりしやうに心配し、身から餘計に苦勞して、氣を以て我が身を刻ると云ふことあり。之れ、滋養物の必要を信ずることの度に過ぎたる誤まりなり。神經質の人物などには、取わけ此の弊あり。所云る人の躰を丈夫にせんとする主意が反つて讎となり、偶ま以て其人を弱くする基となるなり。

◎左れば、病人は兎に角、通常人は平素あまり滋養說に屈托せざるを可とす。飲食を取るに其の滋養の多少を以て撰ばず、味の佳と否きを第一とする時は、其の結果自づから滋養ともなるべし。初めより、滋養を目的として之を撰ばゞ、折角、三度の飲食も樂しみとはならず、藥を嘗める如き心地にて苦〱しく之を取るに至り、其の結果は滋養ともならず、其の影響は寧ろ衞生的の神經過敏を來し、害あるとも、益なく、損あるとも利なきこととなるべし。之れ豈に眞に滋養の事を

知れるものならんや。
◎然し乍ら、一家の主人たり主婦たるものは尋常の心掛にては倘ほ足らず。彼等は無論夫々の品物の滋養分を調査し、價と味とに參考して、成るべく滋養質の多き品物を撰用するとに心掛けざる可らず。彼等は一家の責任者にして、他の族人の知らざる所ろに冲々苦心するが使命のお役ゆゑ、固より此位の用意はなかる可らず。然し乍ら、他の多數の族人、即はち、老人なり、子供なり、客なり、食客なりは、只だ味ひよきものを樂しみて飮食し、毫も滋養の多少など云ふヿに心配せざるように成りゆくを善しとす。之れ即はち滋養の結果を來す眞の活手段なり。
◎以上に述べたる滋養說と同樣の理合にて、人は長壽を得んと苦慮するは、反つて延命の道にあらず、長壽の秘訣は、無慾淡然たるにあり。必らずしも長生せんとすれば、夫が爲めに反つて壽命を縮むると、古來の實驗に多し。但だ無理をせず、過慮をせず、餘計の慾を起さず、是非とも長生せんとも思はず、春風、船に掉さして、徐に長江を下るの心意氣でさへ居れば、人は皆な其の天壽を全うするもの也。古人は無慾なりしゆへに、長命を得しもの多し。今人は自から齷齪として反つて壽命を縮む、たとへば、長生せんと苦慮する其の心配に束縛せられ、漸次に自から意氣の根を締るに異ならず。眞に馬鹿々々しきヿ也。
◎たとひ何程の心配事ありとも、自から之と戰ふの決心固きときは、之に氣を激し、精神を引立て、弱き躰さへ丈夫となりて一身嚴然として堅牢となるものなれど、一と度び、引込思案を生じて、之に後ろを見するやうになれば、杞憂續々生じ來りて、我身と我身を悶絶せしめ、日夜に骨を刻りて忽ちにして枯倒するに至るもの也。進めば之あるが爲に丈夫となり、退ぞけば之あるが爲に虛弱となる、同一の心配事にても、氣を引立つると、氣を挫くとの相違斯の如し。而して、此の進むと退くとの相違は、結局、我身構を爲すと爲ざるとの相違に歸し、所詮は、心に私慾を懷くと、公心を起すとの差別より由來す。必竟、慾は身の讎なり、慾の心兆さば、人は早く老衰し、早く死去す。仙骨童顏ありて、老年倘ほ青年の如くいつ迄も元氣よきは、心に慾なくして淡然として靜かなるゆゑなり。故に、必らず長壽せんと欲するの慾深けれ

は反つて短命に了り、死を顧慮せざるの公心あるときは、反つて長命を遂ぐ、此の關係眞とに隱微、よく人生の眞相に適へるもの也。經に曰く、生命を得んとするものは、之を失ない、之を失なふものは、則はち得と。

鑛毒、母の乳を止む

足尾銅山鑛毒事變の事は、明治年間の一大問題なり。今こそあれ、目前制法のやりくりなどに忙殺せられ、政治家と云ふものすら此の大事件に熱心せざれど、若し數十年の後に於て征客の此の地方に到り、憮然として田野荒廢の跡を見ば、遡りて明治立憲の政治を如何にか感ずらん。玆に田中正造君編輯する所の請願書始末書なるものを見るに、栃木縣下、安蘇郡足利郡に於ける產兒の婦女子、其地の用水鑛毒を混ぜしによりて、はたと乳汁の出を止め、赤兒呱々として飢に泣くの實狀を調査し、明白周密なる一表を添たり。嗚呼、天下仁人なきにあらじ、自稱政士も少なからじ、而して今ま斯の如き慘憺の事實あるは何故ぞや。

講義

老子女訓（上）

◎女學校の生徒に、『老子』を講じたいと、人に談して見た所が大いに驚ろいた。其の六かしいと云ふので驚ろいた譯もあらうが、夫よりは、余り緣の遠いやうに考へて居る所から驚ろいたらしい。フト、之に氣が附いたから、折々、人に話して見ると、大抵は不審な顏をする。矢張り老子を以て、余程實際に遠い議論のやうに考へて、殆んど、女子に益のないのみか、反つて害になるほどに思ふて居ると見える。之れ、一つには、老子の老子たる所を知らぬからであらうが、又一つには余り女を輕蔑した話しである。吾輩の意見では方今の如き浮はついた世の中には是非老子などを讀せたいと思ふのであるが、中にも、女の德を養つて其氣品を高尙にさせるには、老子などは至極適當の敎科書であると思ふて居る。老子は元來實地の敎訓で、決して空漠の事を書いたも

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

のではないが、婦人の實際道德を養ふなどには、就中有力なる書物であると思ふて居る。即はち、女と老子とは、極々、緣の近い方で、殆んど切つても切れぬ程の關係のものであらうと思ふからして、世人が余り妙に驚ろく所に、ちと驚ろいて居るのである。一應、此處に老子の女訓と云ふものを辨じたいと思ふたのも、夫からである。

◎老子と云ふは、一躰、何日ごろの人であらうか。抑も亦實際に有つた人であらうか否やすら、中々、議論がある。之は凡そ名高い人には是非免かれぬ所の疑問である。孔子が其敎を聞いてびつくりし、鳥は吾其の能く飛ぶことを知る、魚は吾其の能く游ぐことを知る、獸は吾其の能く走ることを知る、走る者は以て罔すべし、游ぐ者は以て綸すべし、飛ぶ者は以て矰すべし、龍に至ては吾其の風雲に乘じて天に上るを知ると能はず、今日、老子を見るに其れ猶ほ龍の如き耶と言つて贊歎したと云ふ遺話もある。シテ見れば、孔子よりは少し前より居られた隱君子であらうかとも思はれるが、又それが疑はしい證據もある。其邊は先づ何れでもよろしいが、茲に老子道德經として世に上下二篇の書が遺つて居るのは、周の世の末路に、老子が關所を超て遠く逃れんとした折柄、關所の掛長たる某が、強いて敎を聞きたいと懇望した所より、老子は止むことを得ず此書を著したと云ふ言ひ傳へだ。其書を通讀して見ると、老子が自から言つたらしい所もあり、其前から世にあつた格言を集めたらしい所もある、必竟、老子は一時、書籍館の書記をして居つたのであり、此の書は言はば、關所の門番に書いてやつたのであるから、自他の敎訓を取まぜて五千餘言を綴つたのであらう。老子に取つては、先づ簡畧な當座の敎訓と見てよろしい。老子が孔子に對して言ふたるは、大きな商人と云ふものは、店前にチョイ〳〵した品物を列べては居らぬ、夫は小間物屋のすることである、深く藏に入れて見かけは少しも品物の無いやうにするが大商人ではないか、君も少こし其邊に氣をつけて、社會改良だの、學校の敎師だの、イヤ周の政をどうしやうのと、餘りチョコ〳〵騷ぎ廻らぬば善い、先づ第一、其の高慢と、欲と、イヤに氣取ることと、志を雜多にすることを止めなさるが宜しい、其外は何も言ふことは無いと言つた所が、サスがは孔子だから、大層敬服したと言ひ傳へてある。

◎ソコデ、老子と云へば、世を棄た隱君子で、即はち世を遠ざかつた世すて人だ、實際世間には何の益もない、あのやうな人物が殖えれば世は進歩せぬなどと言ふのが、今日の通論であるが、如何にも淺ましい見識だ。世人皆な世に溺れて世の慾で自から首をくゝらうと迄で仕て居る中に、此に清涼劑を與へて、其の煩惱を救うてくれる人があれば、大層な賜物だ、決して世の爲に無益な所ではない　世人が慾と慾とを衝突させて、朝から晩まで、慾の戰爭をして居る鹽梅は、丸で犬の喧嘩によく似て居る。此の喧嘩をけしかけて、彌よもつて慾の增長をさせるものが、世の益であるか、又は、其の慾を愼めて、其の心志を高尚にせしむるものが、世の益であるかと言ふて見ると、ぢきに分るはずである。中には、マンチエスター派の議論のやうに、イヤ、世の中は慾で進歩するものだ、人間もし慾が無くなれば、開化と云ふともない、西洋の文明は必竟、大慾の結果であるなどゝ言ふものもある。眞とに見當違への話しだ。慾が大きくなれば、世の器械技術の進歩は必らず進むに相違ないが、之で國家の眞の益とも言へず、亦た文明の理想に近づいたとも言へぬ。一軒の

家でも、人の奢りが增長すると、家の內の道具は立派になり、万事が便利になり、至極、目に見ては燦爛たるとであるが、家の亡ぶるは即はち之が爲めである。又、此れほど家の內の万事が立派になつたから、夫れで、親子の間だが美しく、夫婦の間が潔よく、兄弟の間だが愛らしくなるとは言はれない。即はち、眞の文明の進歩と云ふものは、此樣な所から進むものではない。夫れで、慾を殖やしさへすれば、世が進むと思ふのも間違ひ、此の慾の增長に助けするものが、世の進歩に効があると思ふのも亦間違である、寧ろ、此のイヤナ慾を沈めて、其志を高尚にしてくれるものが、世に取つて大利益ありと言はねば成らぬ。今日、支那に道家の人と云ふが多くある。眞に貧しい、見すぼらしい生涯をして居るから、支那のやうな現金國では、人々から輕蔑されるであらうと思はれるに、其の尊敬されて居るとは亦た存外である。彼等は山に住ひ、木食などをして居るものが多い。至つて寡慾で、先づ今日の仙人だ。支那人流義の錢まうけ一式の中に此樣な人物が居るから、其の感化力と云ふものは亦た非常なものだ。喧嘩でも、仲裁でも、相談でも、敎戒でも、隨分、此の道

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

家の人の手によつて甘く調つてゆく。此の道家の士は、即わち、老子の流を酌んで居るので、今となつては、固より其の弊もなり、又、イカサマものもあるが、其中に眞面目のものも少くはない。此から推して考へても、老子の主義が實際世間に關係する工合が分る。一概に、之を世すて人だと言ふて仕舞ふのは、見識の無いはなしで、所謂る、無用の用と云ふのが即はち之である。

◎且又、老子にせよ、孔子にせよ、釋迦にせよ、同じことであるが、かやうな先生方の教訓と云ふと、今日では、簡潔な、意味の深さうな、一寸と聞くと甚はだ空漠らしい文字で書いてある。夫に、之を尊奉して講釋するものも、たゞ之を神聖にすることの足らざるを恨むと云ふ工合に六かしく〳〵解き明すやうにするからして、此等の聖人の教へと云ふと、餘程日常卑近のことゝかけ離れて居るように思はれるものだ。成程高尚には違ひない、忝けないにも違ひないが、何分、今日、箸で飯をかき込むと云ふ手近の事と一致しないやうに思はれて、只だ式服で聽聞するヲトッキの金言となし、常服は神棚にあげて、敬して遠ざけて置くと云ふ氣味合になる。之が甚はだ殘念の事で、聖人のお志ざしではあるまいと思はれる。元來、あのやうな聖人が當時話しを仕て聞かせられた風采と、其場の樣子とを推考して御覽なさい。所謂る愚夫愚婦と云ふを合手にしたり、當座即席で言ふて聞かせたり、目前の手近い例證を引いたり、人々の經驗に訴たへて納得させたりして、極めて分りやすく、腹に落やすく、胸に成程と思ひ易き所から説明されたのである。夫れで、一つも議論と云ふがない。また議論をするなどと云ふ關係ではない。親仁が息子と議論をすると云ふこともない。ホンノ、言ふて聞かせる斗りで、天外落下の意氣込で、一種異樣の勢力をもつた溫和な信切な説法であるから、一々、腑に落つるやうな斷定的の教訓斗りである。夫れで聞くものの身に取つては、成程々々と思ふ斗りで、なか〳〵議論を仕かけるなどの關係ではない。たまには、質問をする位のものだ。扨て、其の説法は斯の如き實地のお話しであるから、何れも日常、身の廻りの手近かに行なふことの出來るものであつた。其のお話しは、如何にも老巧なもので、申さば、粋なものだ。野暮らしい七くどい、書生の議論するやうな所は少しもない、至つて通を得たもの

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

で、申さば、通人の意見をするやうなものであつた。之は、聖人賢者と言はれたほどの人には、是非備はつて居る一つの資格で、多くの宗教の開祖、祖師などと言はれる人々に至る迄、皆な左樣だ。夫故、今日、古への聖人の經書を讀んで、其の意味を悟らうとするには、面倒くさい、六かしい、議論のやうな風に考へては、少しも分るものでない。直ちに、目前に、信切なお祖父さんが現はれて、色々世故人情に經驗された實地の上のお話しからして言ふて聞かせて下さるようなものだと、かふ覺悟して、之を讀まねば決して分るものではない。コヽが、躬行實踐だの、知行合一だのと言ふ說も起つた譯で、先づ手近の調子に合はせて之を聞き、直きに日常の事に行つて見て其の主意を悟ると云ふやうにせねば成らぬ所だ。夫故、老子の說でも、之を高尙空漠の事に聞き流してはならぬ、ホンノ、目前卑近、實際の事について說かれるのであると思はねば成らぬ。

◎夫れで、先づ、三つ四つの章を擧げて、其の大意を講釋し、あらかた、どのやうな事を說法せられたのであるかを示し、老子の教へは、實に善き女訓であることを話しませう

、家庭教育の根柢

教育の根柢は家庭教育にありと云ふことを承知するものは漸やく多くなりたれども家庭教育の根柢の何處にありやと云ふことを善く承知するものは未だ多からざるが如し追々教育家の說精密となり家庭教育の方法として列擧せらるゝもの引も切らず之を目錄にして記臆せんとしても中々容易ならぬ程の次第なるが斯かる雜多の手段を巧妙に調和し一々其の宜しきを得せしめて以て目的を達せんとするは言い易くして行ひがたし幸うじて行なひ得たりとするも存外に好結果は無きもの也其の上功を方法に求めて方法の力によりて望みを達せんとする時は彌よ結果の宜しからぬ時に至りても尙ほ原因を方法の罪に歸し毫も反省することなし屢ば方法を取換ふると移り氣の人の好みを變ふるに似て一と月も持つことなし宛から其の愛子を手習草紙にして色々の文字を書くにひとし紙は漉きかへすことを

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

得れども子供の心は洗濯しがたし色々と悪文字をのこして親の役目のすむべき平凡そ方法に苦心するは悪しきことにあらねど一と度び取りたる方法は餘り變へぬやうにせざる可らず之を變へぬやうにするには最初の思案大切にして篤と熟考し輕々しく發せず亦輕々しく動かさぬようなる勘辨大切なり因りて惟ふに家庭教育の根柢は斯の如き手段方法にはあらず直ちに親たる人本人の躬行實踐にあり其の實際の行跡が目に見ゆる手本となり耳に聞く教訓となり日々座臥の風儀が自然の習慣となり意はず知らず之に慣れて多年の間に熟し遂に拭ひ取ることの出來ざる氣風となるやうに仕込むを第一とす例へば朝早く起き夜正しく寢ね仕事を整理し物を正直にし人に對して信切に下女下男に慈しみを垂れ家に飼ふ家禽犬猫に至る迄夫々の情を與へ雪花風月のながめには其の美を味はひ知り人の不幸不運には同情を表し義理に固く交際を重んじ目上の人に表裏なく能く仕へ職務に對いして怠たりなく勉强し吾が身の慰には淡泊にして能く愼しみ公け事には物惜しみをせぬなど凡そ個人とし公人とし朋友とし親戚として當に盡すべき丈けの善行を勇を鼓して實行し日々夜々月々年々其子供の眼前に示して怠らず而も修飾せず無理をせずつらき所はつらきやうに白狀し乍ら尙ほ其の實行に苦心する情合ひなどは在の儘に暴露し家風を淸潔にして互ひに隱し事の無きやうに取斗ふこと日月を積まば家庭教育として其の子の上に及ぼす影響は眞ことに洪大なるもの也惟ふに其の感化は一生の中消えず假令ひ一時他人に迷はされて傍路にさまよひ入ることのあらんとも偶然何かに感激して復た忽まち元に却り來らんと疑ひある可らず其の化力の深かくして口のサキにて耳のほとりに教訓したる者若くは法方を設けて教場の躰裁にして教へ込みたる家庭教育などの比にあらず此は表面に手早く塗りたる也彼は其の一線一線の糸に深く染めて扨て織り上げたる也持の長き短かき比較の外と云ふべし左れば家庭教育の根柢は親なる人當人の實行にありと心得眞に是れ大責任にして一刻も油斷のなりがたきもののゆゑ如何に苦しくとも勉強して先づ以て我が一身の上より教化の本源を發するやうに盡力せざる可らず其の苦勞は容易ならぬことなれども之も我が愛兒の爲にて子孫長久の策一家万代の計此の外になしと思はば親たるものの慈悲として少さかも懈怠あるまじきことならん斯樣に思慮すれば人の

親となるも亦た難い哉父となり母となるの準備は必らずしも財産を造るの謂ひにあらず夫婦一家を立てゝ生計に心配なきほどの金が出來たりとも夫にて用意了れりとは謂ひがたし女も男も一身の教育を嚴そかにし克己の習慣を熟し家を立てて家風を造り以て其の子の上に及ぼすの影響を健全になし置くを何よりも大切なる準備と心得ざる可らず今の青年男女其の家を造るに當りて此の般の覺悟ありや今の父たり母たるもの既に其子を教ふるに當りて此の般の反省ありや人は何人も欠點多きものなれば直ちに其の理想の如くなりがたきは止むとを得ざれども切めて其の理想丈けは確乎として立て置かざる可らず之を理想に近づき追々其身を上達せしむるの道なれば也然るに此れ理想すら未だ備らずして平素毫も此邊の反省なしとせば遂に何の日に上達を期せんや左れば青年壯年の男女を問はず其の現在の修身の至る至らざるを暫らく問はず先づ以て家庭教育の根柢の何處にありやを心得て常々我身の修練を怠たる可らざると第一の肝要也。

○經濟の上手下手

經濟に上手な人と云ふと、見かけは餘り利巧らしくもない。之と云ふ思慮があるでもなし、斬新な思ひ付があると云ふでもなし、申さば先づ氣の利かぬ方で、外の事には少と愚鈍ではないかと思はれる程であるのが、不思議にも經濟の事になると頗ぶる上手だ。何時でも、餘裕があつて、懷ろに多少の用意を欠いたこともなく、身の廻りもチヤンとして、折目切目に恥かしからぬ贈物もするし、客があれば中々馳走もする、何處を何如してあのやうな工合に整理するものかと不審せられて、扨て、其の人物を見ると、餘り面白味が無い、第一、變化がない。才氣も見へぬ。談しも上手でない。即はち之れと言つて目立つ所が無いからして、やゝともすれば才氣ある人は之を輕蔑する。

之に反し、經濟上にせよ、何事にせよ、種々に工夫する人がある。又、何事によらず、多少の説もあり、議論もあり、俗に言ふ一と見識と云ふものを、何事によらず立てて居る。新らしいことを逸早く見聞し、新聞帋などの出來事は、早朝から

承知して居る。経綸湧くが如しとでも言はうか、始終、様々の腹案がある。コウすればもうかる、あゝすればまうかると言ふとは、常に指ざす如く明白である。ソレデ、色々の事に手が出したくなり、人の相談をうけても夫々説があるからして中々利巧に見える。話しをすれば面白い。會つて見ても單調子でない。其人の家内経済に於けるや、預算とか、帳面とか、工夫とか、料理法とか云ふものは、屢ば變へて屢ば新式を用ゐる。もし新らしい道具などが流行れば人に後れず試みて見る。専賣特許の品などは、是非買つて見ねば氣が濟まぬと云ふ風である。其の才氣は中々のもので、物事の分るとも亦た非凡で、隨分、思慮才覺は裕かであると言はねばならぬ。然るに、其の實地経済の跡に就いて見れば、着々失敗で、つまりは、不足になり、借金となり、破産となると云ふように至るが多い。之はまた何たる譯であらうか。

斯様な人から、前の所云と経済の上手など謂ふ人を見ると、如何にも、のろくさく、馬鹿らしく、氣が小さげに、阿房氣に、考のなささうに見えるからして、多くは軽蔑して注意の外に置く。而して、己は中々、経済上の考が多くあるのだと己惚て居るが、悲しむべし、着々失敗し乍ら尚ほ未だ悟るとが出來ぬ。千兩、万兩の金は餘り大したとでも無いと云ふやうに考へて、例の経済上手の人の如何にも規模の小さいとを軽蔑したのであるが、コチラは五年立つても、十年立ても、余裕と云ふものは未だ曾て無い。時として中々もふかつたやうなとゝもあるが、其時すら尚支拂に追れる必要のとがある、どふして一日と雖ども、ゆるりとして居るとは無い。然るに、例の人は、いつでもゆつくりして、切迫したらしいとは一度もない。さうして、五年、十年の末に至つても、コチラは矢張り借金を背負ふて居るに、彼は、五十圓より百圓、百圓より二百圓と徐々として貯蓄し、最早確乎たる若干の財産が出來、其家も地面も、夙く自分のものに爲たと云ふ。彼と我とを比較して見て、愕然として初めて驚ろくのは、彼は相應に進歩したり、我は依然元の杢阿彌であると云ふとが分つた。夫でも未だ彼の経済に上手たる所以の秘訣が分らぬと云ふともあらう。

此に至つて覺るべし、経済に尤とも大切なるは、新奇に流れず、興に乗らず、根柢なき擴張を爲さず、無理をせず、急が

ず、可成くは在來の習慣を維持すると云ふ、申さば書生や青年の血氣にとつては餘り面白く感ぜられぬやうな諸々の道德を第一とするので、即はち、世の才子者流にとつて至極短所とする所ろを此道に取つての長所とするのである。一言すれば、變ぬと、急がぬと、無理をせぬことを三德となす。この三德を守つて、ヂツト辛棒し、怠たらず勉强さへして居れば、天下のものは何ものに限らず皆な生長増殖する筈のものである。元來、まうけやう〳〵と思ふからして、損をするので、ぢつとして惰けさへ仕なければ、久しい間に大きくなる筈で、斯してこそ成長と言はれる。成長したものでなく、集合したものは散り易いゆゑ、長久の策を爲すものの決して取らぬ所である。砂を盛り上げた山を望むか、喬木の亭々として成長したのを望むか。此の二つを考へて見れば、直に道とする所が分る。

以上は、ちと男子が事業を成す方面を言ふたことであるが、家庭に於ける家內經濟の道も決して之に違つたことは無い。成るべく、家庭の仕組を變へぬやうにして、規律をチヤンとつけるが善い、生計の度は容易に上げぬやうにせねば成らぬ、家風と云ふものは斷じて變へぬやうにせねば成らぬ。此の不變常久の取締りより、家內に自づから一種のキマリがつき、所謂る不文憲法とも云ふべきものが出來て、家政は自づから調のつてゆく。愼んで、此の不文憲法を守りゆけば、家內經濟は自然に整理し、決して餘計の入費の掛るもので無い。然るに、俄出世の人物や、家風圖鹵の家や、今ま時の才子風の夫婦ものは、收入が十圓殖ても直ちに門戶を變へ、道具を變へ、朝夕の習慣を變る。夫れゆゑ、多少の出世が反つて身のわだとなり、少しでも收入が殖れば、夫れ丈け后には苦勞を增すので、眞に慨れむべきことである。孔明、宰相となつて、家庭の經濟を變へなかつたと云ふは、千古の美談となつて居る程だから、又中々仕にくいものであるが、士たるもの、及び、其賢夫人は、苟くも此の用意を忽緖にしては成らぬ。士たるものの、節を守るとの足らざるも、出世を急ぐも、功業に急なるも、晩節を全くせざるも、多くは、家政の修まらざるより來ることで、其の修まらざる最大元因は、急に生計を變へ、生計を高めて、之が爲めに他日ニツチモ、サツチモ、ゆかぬやうになつたからの事である。此の邊の工合は

Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

餘程、氣をつけねば成らぬ。其の氣を付けるには、妻たるもの丶心得にあることで、妻が、奢りを愼しむやうにすればキット行はれる。妻が之を愼しまねば決して行はれぬ。其の主權は殆んど女の手にありと言ふて宜しい。

丶家風を如何にせんかと問へ

家風を如何にせん乎との問題は思慮あり心得ある男女が新たに家を起す時に嚴そかに研究すべき大問題なり假令ば新らしき家にてあらずとも家を嗣ぎたる最初に當りては亦た同樣の問題を思慮することを要す是れ家の盛衰興廢より家門永續の長短に至る迄を決する肝腎至極の問題なれば也家風とは家の風儀風習を言ふことなるが其の風儀風習は喩へば風の如きものにて其の吹き方其の靜まり方にて一家内のすべての物の向と生長とは定まるもの也野原に出で丶試みに樹木の枝風を見るべし其の曲り方其の伸び方等によりて不斷其の處に吹く風の工合を知るなり家風と云ひて家の内に吹く風の調子により一家内の樣子の定まる所以之によりて推考すべし扨て天上の風は人力にて如何ともしがたしと雖ども家内の風は其の出處が知れ居るゆゑ先づ第一に其の出處を調ぶれば風向は如何やうともなるべし其の出處は他にあらず即はち一家の主權を握りたる主人夫婦の心得方如何んと云ふにある也彼の新らしく起したる家門に於ては言ふを俟たず舊家名家と云ひて既に多年の家風の一定したる家柄にても惡しき風は直さゞる可らず森山幽谷より吹起りたる最初は風も清淨なれども既に廣原平野を吹き渡り砂土塵芥を混じたる後は隨分不潔なるものゆへ天公明にして雨を下し此の風を洗ふ風こゝに於てか再たび清潔となる舊家名家の家風も亦た斯の如し折々は洗濯し折々は改良せざる可らざること勿論なれば既に前段にも述べたる如く家を嗣ぎたる最初に篤と思案して決して大に革新すべき弊風はなきとかと考がへざる可らず三年父の立てたる仕方を改ためざるは孝行なりと昔しの聖人も言はれたる程にて容易すく改ためざるは一つの孝行なり又愼しみ也矢庭に書生流義に改革して無益の風波を起すは好きことにあらず大抵の事は年來の儘になし置くべし辛棒の出來る丈けの事は辛棒すべし舊家名家とも言はるゝ大家にては印形一つ換ても帳面一冊變へて

Digitized by Google

Original from CORNELL UNIVERSITY

も其の影響は大相のものにて存外の所迄で面倒を起すものゆへ先規先例の儘にて濟むべき限りは濟さざる可らず其邊は重厚にして老練なる取捨工夫を要すると申す迄もなきことなれど此等變更の爲に生ずる不便不利に優りたる重大の弊害あることは斷乎として改革せざる可らず然らざれば世に革新なることは入らぬことなる也大厦の崩れかゝりしは一木にて支へがたし氣運の衰ろへかゝりしは中々のことにて挽回しがたし斯る折に機一轉し大事を決するは即はち改革にあることゆゑ改革決して懼る可らず親ゆづりの家風と雖ども斷然改ためざる可らざる也只だ斯樣なる際に當りて能く研究し篤と其の家の由來歴史などを調べ見れば現在の弊風は即はち先祖傳來の家風にはあらず反つて其傳來の家風を誤まりて祖先の遺法に背き居るものなることを發見すべし何んとなれば弊風とも云ふべきほどのものにして多年の家門を維持することは出來ざるべければ也左れば現在の弊風を取調べて之は先祖の遺法に背反すると知らば之を改革するは即はち新奇のことにあらず元に復へす也例せば王政維新は王政復古なるが如し斯ありてこそ改革の條理も立ち名義も立ち其の改革に至當の理由と利益とのあることを證據だつるなれ舊家名家の現在の弊風を矯めんとするものは先づ此邊の思慮を運らし篤と由緒を取調べ祖先の遺法に鑑がみて而して后ち改革を決すべし斯る場合にては只だ我一存の好みと我一己の流義とを尺度にすることは穩やかならず此法にても彼法にても宜しと云ふべき場合にて言はば流義の相違のみならば其の流義は先々よりの流義に從ふべし我一存の好みを出す可らず之れ舊家を嗣ぐ人の道德たるのみならず亦た利益あることなれば也夫をしも顧りみず只一概に變更して直ちに我流義とせんとすると書生流義の改革とは言ふ也扨て斯の如く新らしき家を初めて起すものと舊き家を嗣ぐものとは其家風の立て方改ため方に緩急の相違はありとも何れにせよ其家の主權者となるの初めに當りて將來吾家風を如何にせん乎との問題は先づ以て先決問題として提起せられ嚴そかに思慮して第一に決定せざる可らざるもの也。

撫子や人が作ればなほぼそる
野の苔も花さく世話な持にげり
かたつぶりそろ〳〵登れ不二の山
もたいなや靈れしてきく田植うた

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

○嗚呼しんきくさし

ふと考がへて見れば、此世の活計と云ふものは眞とに奇しきものなる哉。抑も、何の爲めに生き、何の爲に骨を折り、誰の爲めに何處に行んとして斯く急ぎつゝあるとにやと、今更ら愕然として驚ろくともあるなるべし。古人の歌に

　あまり、しんきくさゝに、棚の達摩さんを一寸と卸し
　　はちまきさせたり、ころばせて見たり、

と。何人なれば斯くもよく吾心中を穿ち得たると。之にも亦たビックリする人の多かるべし。朝に起き、夜は眠り、三度三度の食事をすませ、食事の度に腹を膨らせては亦減らし、出しては入れ、入れては出し、渡しては取り、取りては渡し、來ては往き、往きては歸り、暑ければ着物を薄くし、寒ければ着物を重ね、今日も昨日の如く、今年も去年の如く、吾が白髮を數ふるともあれば、子供の髮の長くなるとを喜ぶともあり、何が何やら只だ同じきやうなる事を繰り返して、人の一生をくらす。一生とは斯るものか。何の主意にて生れたるものか、死して何んとするものにや。一向譯も分らず日月は

過ぎゆく也。別して家を守る婦女子の身にとりて考ふれば、辛氣くさきと、いやになると、あき〳〵すると計りなり。若き時は天氣も麗かに見え、花もにぎやかに見え、前途の望み樣々にて、早く來年の來よかしと待ち樂しみしともありしが、今は果た年の立つも立たざるも同じきとなれり。戀にやつれし若氣の夢も覺ては面白からず、人の裏面が分りては珍らしきともなし、忽まち腹の立つとも無くなりたれば、大層うれしきと云ふともなし。とつかわと忙がはしき時には氣も付かず日を過ごせど、折々ほどの暇ありて横になりて庭の面など眺め、夕煙の立ぴくけしき、鳥の巣に還る樣など見つゝある際、忽然として思ひ出でなば、抑もや此世の生活なるものの何事にてあるかぞ。面白くもなし、不思議にもなし、樂しくもなし　苦しくもなし、只だ〳〵同じと計り繰り返すとの馬鹿らしさよと思ひ出でゝは、氣の張りも拔け、我慢も弱はり、見榮も構はれず、目あても無くなり、只だ何なく氣が陰氣になりて、下へ〳〵と心の這入るように感ぜらる。針を取つて無心に何かを縫つて見たり、投げて見たり、考へもなく考がへて見たり、身は活けりと雖へども死ながら死せるが如

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

し。

察する所、斯る狀態に日をくらし、滯り水のたゞ溜まれるが如くして世を過す婦女子も少なからじ。其の顔色の艶氣なく、其の立ち居の勇ましからず、洒然として悟りたるようなれども、亦た何となく陰氣らしき所あり、物を苦にせぬやうに見ゆれども、何處かに一物を挾さむ所あり、第一、女の美になくてならぬ愛嬌と云ふもの全く失せて、蟲を嚙む如くに感ぜらる。眞とにお氣の毒と思はるゝこともある也。

此は何故ぞ。何故ぞと言ひて元因を探れば種々あるべし。言ふ迄もなく、心に面白く感ずるほどに氣を引立つるものの無き故なれば、其元因が其の婦人以外に關係することあるは明白なれど、之は他人の事にて如何んともしがたし。茲には先づ其の婦人自己の思ひやうにて直ちに其の不愉快を散らすことを得る由を告げ申さん。自己一身の事は、自己一人にて處理するに六かしきこともなかるべし。

扨て其の方法とて別段の事のあるにもあらず。斯る辛氣くさき狀態に立つの婦人ありて、扨ても世は何事ぞ、斯くも變化なき、面白味もなきものかと疑がふことあらば、然り世は其の通りのもの也と決定し、別して他の解釋を聞かんとすることを要する勿れ。變化異樣の事を求め、世は日々珍らしきことのあるように誤解したればこそ、今の世が面白くもなきやうに今更に歎ずるなれ。千古万代、此世は此の通りにて、文明なりとも、野蠻なりとも、人の情と世の樣とに變りはある可からず。花は紅、柳は綠にて、水の流るると、山の動かざると同樣なり。人世はいつ迄も此の通りなり。此の通りの外に何かを求めんとすればこそ、厭もする、忌にもなる、何か珍らしきことを望みもする也。須からく翻然として思ひ付くべし、如何にもとめたりとて別世界のあるにもあらねば、只其まゝに此の世界に安住すべし、此の世界の外安住する所なしと決定せば則ち安住の出來るもの也。目に青葉、耳にほとゝぎす、初かつを、蚊やりの煙、冬の雪、秋の紅葉、村雲の月、赤兒の泣き聲、念佛の聲、きぬた打つ音、ラッパの音、只だ其儘に聞き入れて、只だ其まゝに應接すれば、世を別段に造りかへんとも思はず、之れにて不滿足なりとも思はず。而して我が周邊を考へなば、良人もあり、子供もあり、朋友もあり、景色もあり、何も不足はなきことならずや。釋尊曰く、初めて知

る一切の成佛することをと。忽然として思ひ直せば人天上下、只だ此のまゝにて厭きもせず、忌にもならぬもの也。世の辛氣くすき婦女子の方々、只だ其まゝに平安を得玉へ。

、夫婦取換て見よ

人は我が爲ることを最とも困るしきことと考がえ、他の爲ることを甚はだ容易きことと思ふ癖のあるもの也。夫婦お互ひに同情を表する間柄にても、矢張り此の弊は免かれがたし。妻が終日子供の世話をやき、又毎日毎日煮焼の事に屈托する苦しさは、毫も主人の知らざる所ろ、又、主人が如何ほど世間の風波にもまれつゝあるかは、妻たるものゝ神經にても容易に測り知りがたし。因て思ふに、妻と良人と折々其地位を取換て見ては如何ん。即はち、良人の代に妻が外出して用を辨じ、其の間だ良人は一日家に留守して子供の世話をして見るべし。ちと外出して見たしと思ひし想像も止めになり、可愛らしくのみありし子供もウルサキものと云ふこと少しは分り、お互に感心するやうになるべし。

随感

○活を入るる事

悶絶せしものに活を入るゝと云ふ事あり。武藝者のみのすることと思ふ人もあれど、そは精はしく念ぜざるの故なり。總身の氣合ひを一つにし、本我飛躍の決心にて彼方の死物に飛び込む、死物茲に於て氣息吹き返すの妙機は、世上のあらゆる人事に於て、其の先覺が常に後覺に施こす所の道なり。猛虎一聲して山月震ふの慨ある臨濟の一喝も、所詮は靈覺の死せしものに活を入るゝにてありけり。昔しはラザロ死して葬られ四日を經たり、基督曰くこれ眠れる也と、則はち其の墳墓に就き、石を取除けしめ、天を仰ぎて大喝して曰ひたまはく、ラザロよ出よと、ラザロ則はち復活せり。

○力の出づる事

茲に十二年血漏を患ひたる婦人あり、多くの醫者に治療を乞

ひ、身代を失ふ迄にせしが少しも癒えざりき。耶蘇基督の奇しき御力を聞き、或る日大勢の人に從はれて基督の通行し玉ふ時、群集の中より彼の後に來り、その衣に捫れり、その衣にだに捫らば直ちに愈ゆべしと信じたれば也。信仰の力は驚ろくべき哉、血の漏りは直ちにとまり既に疾いえしと身に覺ゆるほどになれり。基督は能力の己より出たるを自から知り、大勢の人々を顧りみて曰たまはく、我衣に捫りしものは誰ぞと。夫れ、劍道に妙を得たるものは、一二間も離れて之に尾し、暗撃せんとするものゝあるを見ずして感ず。政道に心を苦しめて世機の動くに思を潜むるものは、一葉の落ち、一聲の泣き渡るにすら時勢を感ず。皆な其の生平深く心を熟するの所ろに靈覺を得れば也。耶蘇基督は、人の疾苦を救い、其信を起さんとに晝夜を舍き玉はず、樹下に祈禱する人を見ずして感知し、樹上に景慕する人を問はずして感知し玉ふ。今ま其の衣の端にだに捫りて疾の愈えんとを信ぜし殊勝の婦女子ありて、そと御傍に近づき來たらん時、能力の出しとを感じて顧りみて其人を見玉ふと云ふ、徒弟の文を作る亦た淡泊なりといへども、其の昧の存する所ろ眞とに深きを見る、歳の形跡よりして之を推考するを可とせん哉。

○勇猛心

聖經中の靈句大率ね此の類なり。

○登高自卑

形而下より形而上を推し、顯はれたるより幽けきを考ふ。千里の道も一歩より初まるが故に、一歩を狹しと云ふは非なり、久しく一歩に留まりて進まざるをのみ憾みとすべきなれ。宗敎界高遠玄妙の事、安くんぞ、口舌と文筆とを以て悉くすべけん。釋尊は默して微笑し、孔夫子は吾言ふなからんとすと言い、基督は慈然として「多くの事汝等に隱されたり」と告げ玉ふ、況んや吾輩劣根にして不辨、たゞ僅かに神會默識して其の樵路をたどりたるものをや。然りと雖ども、其の高遠なるものは卑近なるものよりし、幽邃なるものは淸淺なるものよりして少こしく其の消息を通じ、以て僅かに彼蒼の靈光を招かんのみ。普遍全能の本躰は吾等が能く意識し盡す所にあらず、其の大慈大悲は天が下に於ける何物にか比へんや。たゞ僅かに名づけて曰く、天の父と。父よりして其の宏大なる御德を景仰す。されば、凡そ奇蹟とも稱ふべき程の主の御行を考がへんとするものは、亦先づ人間尤とも巧妙靈達せる修

したる以後の事とす。

練の形跡よりして之を推考するを可とせん哉。

○勇猛心

大勇猛心、これ信仰に必須の勢力なりと知ることは難きにあらねど、扨て〳〵之を得て之を發こさんとの容易ならぬこと哉。古人曰く、義しきを見て爲ざるは勇なき也と。實にも勇なき也。慷慨激烈の氣に鼓せられては、ブランデーの勇を假り、榮枯得喪の利心に迫まられては、馬車馬の騷ぎを爲す。是れ豈に吾黨の景慕する所ろならんや。但だ彼の精心澄然として法華理想を渴仰し、之に身を獻ずることの危難困厄を知りつゝ安如として適き、則はち逆境に、則はち貧究に、則わち孤獨に、則はち大難惡にまで成り果てゝ平然として尚ほ樂しまんずる大勇猛の士に至りては、愛戀欣慕するも尚ほ堪へがたきを感ず。而して尚ほ身斷然として斯の如くなることを得べからずとせば、抑そも吾黨の學ぶ所は何事ぞ。天下書を讀むの暇まなきを歎ずるもの或ひは之れ有らん、中夜切りに思ふことを廢するを悲しまざるもの幾何ぞ。願はくは同もに眞憂を語りて、亦同もに磨勵せん。紛々たる世事は必竟此般大事を決了したる以後の事とす。

○托鉢

一鉢に身を托して生死を人の喜捨のまゝにす。賜わざるものにも懇ごろに祈願し、賜へるものにも懇ごろに祈願す。抑そも維持せんと欲する所ろのものは法躰これ也、肉躰の生死何んかあらんや。此の何んかあらんと慨しつゝある肉躰維持の形跡にて乞食し、日夜錢厘の利を忙はしき人の門邊に立ちて其の喜んで捐捨するを須つ。凡そ一切善工業の爲めに義捐を乞ふものゝ眞情眞に當に斯の如くなるべし。金錢よりも大なるものあり、事業よりも大なるものあり、形骸よりも大なるものあり。審びらかに之を辨まへ、嚴そかに自から戒しめつゝ、與へざる人、與ふる人、潔よき人、忌わしき人、俄富權の驕慢なる人、心あまりありて僅かに寄附する人などに會面して、一々頭べを垂れて善事の爲めに感謝し、衷心誠愛の情をもて其人の祝福を祈禱す。翻つて眎むれば世上寄附金募集の人多し、巧妙、周旋、至れり盡せりと云ふべし。之と同もに形跡を等ふして其塵に同ず。何んぞ和光と言はん、亦只獸

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

して靜かに學ぶ所あらんとする耳。

○愍れむべし人間

愍れむべし人間何んぞ痴態多き。嬰兒稍や長じて常德に離れ、年壯くして氣暴らく、才疎ろそかにして自から英雄とす。大抵、其の爲す所は無用の事なり、誰か樹下自から縊くゝるものを笑ふ、人間大率ね自から縊死せざるはなし。縊死する尙ほ恕す、何んぞ自から其の墳墓の穴を堀らざる。昆虫尙ほ自から埋め、鳥犬尙ほ自から隱くす。人にして能く其死所を備ふるものは殆んど稀なり。

○天王寺の穴堀

自から穴堀らざるものも人の爲めに穴堀る。天王寺墓畔に新らしき葬あり。土堀、鼻歌うたひつゝ深き穴を穿つ、戯むれて曰く、斯程大きなる穴にて晝寢せば如何に樂しきと。彼は夕陽山の端に沒する比、濁酒に醉ひ淘然として家に還り、遂に夜半の風を聞かず、落花破窓を撲てども、彼寢ねて鼾聲雷のごとし。

○舞姫

ふとして舞姫なりと云ふものゝ、むくつけく土くさき田舍人に伴はれて遊散するを見る。赤きシャツ面にちとの髯を伸し、不風流に着なしたる絹布に金ぐさりを輝やがせる傍に、蝶の荊棘にまとはる如くする舞姫を見る。其チラホラとする時、さこそ刺にふれなんともあるべきにと思へば、可憐の情淺しとせず。人ありて曰く、凡そ斯る商賣して氣に食はぬ程の男にまめに仕へんには、別に愛戀措くと能はざる人のありて之が爲に苦勞するの故なり。もし此唯一のうさはらしだに無くして如何で能く其の馬鹿らしきに堪へんやと。余、嗟歎して曰く、彼女尙ほ愛戀する所のものありて膝を屈す、世上の名士、そもゝゝ何に愛戀して別に屈する所ある。人を戀ふは、物に戀ひするよりは佳し、論者暴りに彼の可憐の女を輕んずる莫れ。

○人事意料外

人事の變遷は預想外にて、かねて意料すべからず。平常、我

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

一身の事を、我一身にて處置せんずる場合すら、明日の事は測度しがたし。明日の事は明日思ひ煩らへ、今日より預しめ憂ふるを要もず、一日の苦勞は一日にて足れり、明日の事をしも益なく過憂する勿れ。況して、復雜なる人世に立ち、數百万の人を相手にして、一義を全くせんと欲す、其の行路と日取との豫算に屈托し、かねてより我案を立てて必らずしも之に合せんとするは、愚にあらざれば狂ならん哉。近時の變遷を見て少しく了知すべし。更に況んや末路人心區々として何人も皆な疑がひ、何人も皆な安んぜず、其の合躰して爲す所の决果は、亦た何人も贊成せざる所ろ也、彼等皆な好まざる所の意外の結果を來して、驚ろきて皆な狂奔し、而して亦た皆な好まざる所の第二の結果を來して亦驚ろく。末路の倒るるは自から倒す也。冲々として苦心經營する所の人の之を倒す也。慨世憂國の士の之を倒す也。嗚呼何んぞ其の事の慘なるや。

○學風必しか憂るに足らず

學者は過去の實跡を研究し、之に一貫せる筋道を發見し、其曲折を辨明して、天下の大道に合せしむ。故に顧りみて愚に天下の事、理に順はざるものは無しと。これ不當の悟りにはあらずと雖ども、倘ほ先後を識らざるの不明あり。學者それ理に精しく、理の影響したる過去の史乘に尋ねれば、世界の大事頻々として皆な此の理の爲めに起伏せるを見る。此に於てか、學問一代を支配して學風、一世の治亂を掌どると思惟す。學者として自から强ふするの痴態寧しろ憫れむべしと雖ども、彼等が活務の人に遠ざけらるゝ亦此による也。夫れ、學風は自から立つものにあらず、一種の寄生物のみ。僅かに勢に乘じて暫らく盛衰す、必竟、一代の風潮に文の名を附し、之が傾向を表明せしのみ。安くんぞ死せし學問そのもの自から風潮を起すとあらんや。此の故に學問の汚隆を絕叫して天下の警戒を促かすは、便利なる符徵として固より不可なし。但だ此見を根抵にして實事を成さば、世務と相關せざると遠し。眞乎の學者、此般子供だましの得意に驕るとある可らず。眞とに能く一代の風潮を起すものは、則わち之れ有り矣。

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

雜録

横井小楠（上）

明治二年正月五日、横井平四郎先生、退朝の途寺町を過る折兇徒十二三名、短銃を放つて突然輿に迫る。先生、輿を排きて出で短刀を以て抵抗せられしに、病後衰弱の身の事とて敵する能はず、秀でたる撃劍の心得あり乍ら、敢なくも敵刄に斃れて落命す。爾來歳華落ち又開き、今茲其の三十年忌を催ふさるとあり。席上、最期の短劍を出し見されしを觀るに、鋒鋩皆な鈍り、中ごろより鍔元迄四つ五の切込あり。深さ大抵二三分、當日大刀を受止られし跡なり。血痕尙存し悽然として粟を生ぜしむ。嗚呼誰か今昔の感に堪んや。

（一）海舟先生談片

◎尾州の村田から初めて小楠の名を聞いた。西洋の事はワシが色々話してやつた程だが、其の聰明なとは實に驚ろく計りであつた。亞米利加の政治を少し話すと、ハハー、堯舜の政治ですなと直きに言ふた。

◎何か相談をしてやると、手紙で返事をして實に漠然たるようなとを答へて、終りに之は今日の事で明日の事は測り知るとが出來んと書いてあつた。ワシはひどく驚ろいたよ。

◎平生の身なりは、先づ大名の御留守居役と云ふ鹽梅で、タイコモチのような調子で、極く氣が利いて居た。夫れに、藝者やタイコモチと話しするとが好きで、八釜しい議論などは極く嫌つたよ。人に會ふのでも大相で、一日に一人二人にあふと、今日はもふ勞れたなどゝ言つて會はない位ひだつた。ダガ、植木屋だの、おばあさんなどを相手にして、一日でも話して少しも倦まなかつた。彼等もよい相手のつもりで、一日でも話して居たよ。

◎ソレワ、とひよふもない人で、何を言ふのか分らない位ひだつた。弟子なども、善い弟子は無いよ。分りはしないからネ。大久保でさへ、小楠を召んで見た所ろが、存外であつたと言ふた位ひだ。

◎お茶屋で酒を飲んで居る所ろへ、浪人が切り込んだ。スル

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

と大小を放つて置いて、丸腰のまゝ逃げ出したものだから、國に送り還されて閉門をくつて、ひどい目にあつたよ。丁度、其の比、ワシが小楠を幕府に推擧したものだから、勝はひどいものをすゝめたと言ふので、同じく閉門をくつた。

◎イヤどふして大へん修練した人サ、旅行した時の事や、其外種々困しんだことを、會つた時に話したつけ。

◎ソリヤア、あれ丈け智慧がありやあ、膽力の方は減る筈のものサ。

◎西郷にはトウ〳〵會はなかつたよ、然し、横井の意見を西郷が行つた日には仕方があるまいと云ふのがコチラの考へであつた、とふ〳〵そうなつたよ。

◎どうして、あの時には迚も行ふとは出來やしない、誰が出たつて出來るものか（越前公總裁たるに賓師たりし時）。

◎小楠を殺したのは、誰の組か知らん、矢張り川上源哉の手だろうよ。

◎長洲派は殆んど小楠の功を見とめず、又大抵のものは別段其の經綸を見とめなかつた、非凡な大きな考がへだから、迚も通俗には分らなかつたテ。

かの山

三輪花影子

かなたに見ゆる　山々は、
むかし草つみ　花をりし、
たのしき時の　まゝにして、
面かげいとも　なつかしゝ。

峯に琴ひく　松原は、
友とうちつれ　山慈姑、
つみにしときの　まゝにして、
昔しのぶの　しらべあり。

雪を粧ふ　おもかげに
別れをしげに　日は入りぬ。
風にしそよぐ　枝もれて
殘るひとりは　さまよひぬ。

島のなく音も　しづまりて、
梢のしらべ　すみわたり、
すぎこしかたの　しのばれて、
ゑみのなかにも　涙あり。
松はむかしの　色なれど
昔の友は　散りにけり。
いつこにすむと　たつねれば、
知り得しものは　唯ひとり。
過ぎこし方は　ゆめなれば、
夢をかなしむ　おろかさよ。
夢はまよひの　かげなれば、
かげに煩ふ　はかなさよ。
過去もつもりし　今なれば、
一世に今も　くわこもなし。
迷のかけの　ゆめなれば、
いつか跡なく　消えぬべし。
夢はさむれば　あともなし。
一世は夢の　ゆめにして、
神よりほかの　者もなし、
なべての人も　我にして。
かくとさむれば　悟るぞと、
おもひし事も　ありたれど、
われはおくなり　かの山に
のぼりてむかし　しのぶこと。

ねせつけし子の洗濯や夏の月
投げ出した足の先より雲の峯
夕立の取落したる小村かな
今の世や見え半分の田植うた
夏山や鶯雛子ほととぎす

孤兒の父ジョージ、ミユーレル氏

英國アスレイ、ダウンに一大孤兒院を建て丶六十餘年間、幾千、無告の孤兒を救濟敎育して、之を道の正しきに導き、之に自活の業を授けつ丶、敢て自ら求むるにあらざれども、天下の慈善家の至情を之に傾注せしめたる、彼ジョージ、ミウレル氏は、本年三月十日、九十有三の高齡を以て、遂に永眠す。

ミウレル氏は元普魯亞の人、年少にして遊惰に身を持ち頽せしが、一朝良師の薫陶を受けて、飜然善非を悔い、父の希望の如くに、傳道界に投じて、英國に渡りしが、後千八百三十五年齡三十にして、氏が畢生の大事業たる孤兒院を起して、生命を之に献じ爾來六十年、今日に至りては、二千人の孤兒を救濟する大組織となれり。之を維持すると、實に、諸方慈善家の喜捨金にこれ頼ると雖も、氏は曾て一度も、自ら之を求めたるとなくして、年々支出する處の金額十一万五千磅の多きに至りて、敢て收入の乏しきを訴へず。

孤兒院事業の他に、氏は内外國に幾多の傳道會社を起し、また自身、諸國を巡回して、福音の宣傳に怠るなかりき。往年我國にも渡來し、其信仰の生涯の實際談は、多くの基督敎徒をして、一層の信を起さしめたるのみならず、石井十次氏が、岡山に彼一大孤兒院を起したるものも、實にミウレル氏の敬虔博愛の大精神に感激して、其事業に倣はんとの至誠に由れり。

氏は九十有餘の高齡に達せし後とても、其孤兒院事業に、熱血を絞りしとは、素よりいふを俟たず、其上に、毎日曜日には必ず二回の說敎をなしたりといふを以てして、如何に氏が壯健時代に於て博愛正義の爲に勞したるかを推知すべし。氏が慈悲の腕に育ちたる幾千の孤兒、多くは幸福なる生涯を營めり。凡そ洋の東西を問はずジョージ、ミウレル氏の名を聞くものは、其大慈善家なるを知る。氏が受くべき、最も適當なる榮稱は、詢に孤兒の父といふにあり。此孤兒の父、今や亡矣。而して氏が孤兒院の遺業は、其女婿ジェームス、ライト氏之を繼續する處となれり。氏たるもの、良嗣を得て、必ずや、幽冥の裡大に安ずる處あるべし。

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

目下窮民の實況

觀潮庵主人

我國民は日淸戰爭後の虛榮を賴みて投機流行熱に罹り、依て以て不相應の事業を企て、今や算用合はずして損失するもの多く破產者漸く現はれ來れり、權利株の上景氣に血迷ふたる輩は株劵下落と共に家產を倒盡するもの多く、商工業者に幾多の損害を與へたり。日本銀行は兌換劵濫發に利益を占め、以て物價を騰貴し、輸入を超過せしめたり。加之、昨年來の米作凶荒の爲めに各地細民の困窮至る所慘絕を極めつゝあり、昨年の狀況は曾て吾人の記したる者あれば、斯には目下の實況に就て少しく觀る所あらん。

昨今經濟界の金融切迫して、何れも不景氣なる次第は、各自日常の經驗する所なるが、第一の例として見るべきは外國米の輸入額多大なるとにて昨年の如きは古今未曾有の多數となり、其輸入元價は二千一百餘万圓に上りたるを見れば、所謂南京米を食する者の、如何に多數なるかを知るべし、次は貯金の減少にして是迄多少の餘裕あれば郵便局又は銀行等に貯へたるものも物價騰貴の爲めに日常の生計に困み、曾て貯金したる者を引出す者多くして其減少や驚くべき程あり、次は雇入口入宿に於て雇はれんとする男女の數は益々增加して之を雇はんとする人愈々少なきに至れり、則ち供給のみ多くして需要少なきもの、各自が勤儉節約する樣見るべきなり。又、質屋は入質多くして出質なき爲め休業せる向も少なからず、古道具古着類の安くなれるを始めとして、不景氣の聲ならざるなく、物價騰貴を困まらざる者なき有樣なるが、更らに各地の窮民を見來れば、一層甚たしき者あるを知るべし。左に縣別にして其一班を記さん。

◎本州中區

○長野縣　信濃國は本州中區に於て最も早く窮民の叫聲を發したる所、此地の救濟法は外國米を輸入して安賣りするを最とす、去月上旬松本町に於て救助米を賣渡したる際、日々門前に群集する細民は二千人以上に上り、八百餘石を元價にて賣出したるに之を買はんとて先を爭ひ買ひ競ふもの山の如く遂に少なからぬ負傷者を生ずるに至り警官は必死となりて漸く之を鎭靜したり何等の慘狀ぞや、伊那地方の窮民は一日三度の粥をすら啜る能はずして之を二度に減せるもの多き次第なれば、漸次祖先傳來の田畝を質入若しくは賣却するもの續出し貧富懸隔をして增長せしむる現象少なからざるに至れり。

○山梨縣　甲斐の國は信濃と均しく窮民の困む者多き所にして、南巨摩郡豐岡村大城組は戶數五十九、人口二百九十人といふ小部落なれど一村擧つて飢渴に迫り止むなく山奥に入りて藤の根、葛根等を堀り來りて葛餠に製して飢を凌ぎ、又た都留郡地方にては日常の食料を山野に求め摘草に米を僅かはかり混じて粥となすあり、白米二合に水一升を入れこれに野菜多量を入れたる粥あり、麥又は粟に水八分を入れたる粥あり、黍粉に遷八分を入れて團子とするあり、この外何ほ朝夕芋類を食す、又た中巨摩郡北部地方は南京米に野菜を混じて粥となし、南湖村邊も亦、折米、麥、野菜を混じて粥とするあり東八代郡の一部は米に蕨を混入したるを食する地方によりて其困難の程度多少の厚薄あるも山梨は何れも皆困みつゝあん、白米一升二十一錢にて麥は十七錢以上なれば、到底之を食ふに由なく、爲めに三々五々靜岡又は橫濱地方に出稼するものあり、又身延村地方に於ては十錢以上一回に白米を買ふもの稀なる所あり、大根の乾葉一連は七八錢の高直にて夫れずら得難き所あり、南巨摩郡穗積村邊にては身に襤褸を纏ひ疊に代ゆるに藁筵を以てし又は床板なき土間へ直ちに藁筵を敷き藁屑を以て蒲團とするあり常食は麥、粟、豆腐粕、稗甘諸野菜に南京米、又は白米二合を混じて粥とす、斯の如くして三回の食を二回に減じ、斯くて私かに乞食に扮して近村の葬式に食を乞ひ、婦女子は不潔なる出稼に出つる等一々枚擧に追あらず。

○栃木縣　下野國は概して甚しきものなく今後奈何との氣遣ひを爲すもの寧ろ多し、而かも今市の一老婆が六十餘りの年にて僅か銅貨三錢を以て白米を買はんとし、米屋の主人憐然に思ひ一升を與へたるなどの慘話あり。小山町、黑羽町等

は今救助法を講じつゝあり。

○茨城縣　常陸國は下野の比に非ず、水石市にても飢餓に

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

は今救助法を講じつゝあり。

◎茨城縣　常陸國は下野の比に非ず、水戸市にても飢餓に瀕せるもの多く、鹿島郡邊は二三合位の麥粥を喫するあり、過日餓死したるもの二名ありたり。

◎千葉縣　安房國安房郡曦村邊は大抵の所持品を質入し、果ては手拭一本までも質物とするに至れるあり、概して安房は漁獵地なれば不作と不漁と續ける所は其日の烟を立ち兼ぬる次第、救助法は矢張外國米の輸入、又は抵當品を出して金圓を借入る等の事なり。

◎岐阜縣　美濃國揖美郡西北山の人民は困窮の餘り楡の葉を摘み之に少許りの米麥を混じて飢を凌ぐもの少なからず。

◎群馬縣　上野國桐生町邊の貧民不穩の狀ありしと聞きしが其後の模樣格別の事なきが如し。

本州中區にては、信濃を以て最とし、次は山梨なり、東京は廿三年當時の如き貧民救助を行ふまでに至らず、最も定住の貧民窟は言ふまでもなく困難なるが、目下尙ほ薄給官吏、則ち安月給取、小工商人、等始め困むもの數を知らずと雖も未たる救助米を賣るの必要にも迫らず、但し今秋より來年にかけ恐らくは非常の事あらん、豫防するこそ肝要なれ、滋賀縣近江は他地方の困難なるに比して寧ろ好景氣、盖し平常の心掛けにも依るべし、福井縣には多少の救助法等も行はれ、貧者の呼聲もあれど、先づ僅少なり、富山縣も一地方には貧民の聲なきに非ず、魚津地方にては白米安賣の方法を立て三四ケ月以來行ひ來れり、埼玉、靜岡、愛知、三重等は昨今に至りて聞く所、眞個に稀なり。

◎本州北區

◎新潟縣　越後の凶荒は各地方に比して困窮の程度第一位にあり、外國米を輸入すると多額、縣知事の諭告亦屢々出さる、去る日は縣の救育費を以て十五歲以上七十歲未滿男一入玄米五合、女及び十五歲以下七十歲以上男一人一日玄米三合の割合にて三十日以內食料を給與するの告示を出したり、同地は娼妓、米搗、角兵衞獅子、三助其他種々の出稼人多き所なるが昨年來特に獎勵したれば他地方に出稼するもの少なからずと雖も、何れの地方も不景氣なれば其得る所の賃錢の思はしからぬは言ふまでもなし、同三魚沼郡地方は山又山を分け入りて紫蕨、獨活、及び草木の萠芽を取り蓬草の如きは根まで堀り取りて補食となさんとし終日唯々食事に追はれて何事も爲さず、各家は總て戶を閉ち居るの狀あり、中蒲原郡の林村は三月一日以來全村擧つて酒と煙草は一切用ゐざるとに約定する等其他到る所として貧民救助の企圖なき所なし、特に先頃直江津の全町殆んど燒盡したれば同所邊は困難一層に增加し、救助を受くるものも飯を容るゝ器なくして蕗の葉、笠、前埀等に貰ひ受くる等目も當てられぬ樣あり、凶荒に加ふるに彼の大火なれば思ひやるだに憐れなり。又去る四月下旬、新潟銀行員某は夜中金庫を開きて四千八百圓を竊取し之を各貧民に撤與へて逃亡したる者ありけるが、先月下旬に至り南蒲原郡井栗村長助役等共謀して貧民に給與すべき救助米及賑恤金を橫領して、己が私慾を滿さん爲め酒食に濫費し輕懲役又は重禁錮に處せられたるあり、人樣々の世と申すべし、後者の如きは實に惡みても尙ほ餘りある曲事なり同地は近來放火竊盜等大流行す、貧して窮したる。社會現象は則ち是れ。

◎宮城縣　陸前國仙臺市は貧民の救助を行ひつゝあるが、大概ね白米の救與法を取れり、玉造郡鬼首村は戶數二百二十戶の內僅少ながら飯米を蓄へ居るものは二十八戶、全く糊口の道なきものは六十戶、縣廳よりの救助米にて露命を繫ぎつゝあるが每日山野に至り、蕨の根を堀り取り之を碎きて水漉となし其沈澱せる泥混りの粉子を團子に拵らへて之を食ふもの少なからず、又其筋よりの救助米といふも菜葉七分に米三分位の粥にて剩へ一日一食なるより空腹の餘り仕事を爲し難く恰も病人の如し頑是なき小供に至りでは空腹に堪へ兼ね老婆の漉しつゝある蕨の泥粉を嘗め居るなどは憐れといふも愚かなり、斯の如き樣なれば十五才より十二三才の少年は仙臺市に出稼し又は乞食するに至れり。

◎福島縣　磐城國桑折の有志者は貧民救助の慈悲會を設けて奔走する者あり、東北地方中、比較的困窮者の少なきは此地なり。

◎山形縣　羽前國山形市を始め鶴岡町其他各郡共、昨年來より困窮の叫聲高き所にして食物の如きも他地方と均しきも

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

のあり、東小國地方は蕨の根採掘の流行すると豫想外にして何處の村に至るも朝夕「ドン／＼」の音絶ゆるとなし、こは副食物を得んとて種々の物を搗く杵の音とぞ聞えし、外國米の輸入は續々として引きも切らさる、先頃山形市役所にて外國米を買入れて販賣したる所、奸商等は其購入券を詐取て多量に之を買占めて高價にて各郡に販賣したる者あり、窮鳥も獵師の懷に入れば之を放つものをさりとては情けなし、此種の奸商ほど世に惡むべき者はなからん。普通の泥棒よりも其罪は輕からざるものとす。

○秋田縣　羽後は東北地方に於て第二位に下らざる困窮の度にあり、其筋に於ては勿論、有志者の間には夫々の救助法を實施しつゝあり、平鹿雄勝仙北三郡の如きは葛の根、タラの木の皮、松皮、粃、藁等にて何れも團子として食はするよなるが、之に要する鹽味は漬物の殘汁なり、之も盡きたれば屑鹽を求めて調味する爲めに腸胃を損じ赤痢病の流行甚だし。又は上三郡地方は貧民群を爲して山野に入り蒜根を掘りて食料とす、四月末の調査によれば秋田市内のみにて極貧者と目すべきもの二百九十七戸、其人口千三百三十人なりしが、郡部困窮は市内の比に非るか如し。概して東北地方には松皮餅を食すとの報多きが、こは松の木の上皮一重を剝き其の中の柔きを取り、僅かの米を混じて餅の如く製するもの、天保年代の飢饉には能く用ゐられし食料なり、而して雄勝郡皆瀨村畑の窮民四十餘名は窮迫の餘り同郡の救荒豫備粟を竊取して分配せんと企てたるなど、其の困難思ふべし。

○巖手縣　陸中國西和賀郡澤田地方は、山に入りて若芽草の根など堀り取りて纔かに露命を繫きつゝあるが、其常食は蕨の根に粉、糠、蕎麥糟を混和したる團子なり一寸見たる所恰も蠶糞の如くにて素より滋養となるにあらざれば、顏色蒼ざめ眼落ち頰出て、病人の衰弱たるに似たり、又湯田村邊は慘狀特に甚しく三ヶ月以上未だ米粒を見たるともなき程にて小兒等は稗の粥など見る時は飛び立つはかりに喜ふとは何ぼう憐れのことぞや、されば暗に乘じて夜逃けするもあり、特志者間には匿名にて貧民の救恤を行ふもあり。

○青森縣　陸奧弘前地方始め、麥を播かさる土地とて一般に米飯を食する習ひなれば、他地方の如く新麥の出づるを樂むと能はず、但し貧民困難の聲の割合に聞えさるは幸ひなり、此頃野邊地の豪家野村氏は白米一升十五錢と定め三ヶ月間一人一日三合宛を賣渡せしが其損失凡そ二三千圓なりと、豪家の所爲としては先つ可なり。

本州北區にては、新潟を以て最とし、次は秋田にして、次は山形、宮城の二縣、次は巖手にして、青森と福島は左程のとなしと見ゆ。

◎本州西區

○岡山縣　備中國哲多郡上市村大字井村の窮民は先頃一同村社に會し協議の上村內にて米麥を他地方に輸出する者あらば容赦なく其家を破壞すべしとの決議したるありき、困窮甚しき地方は義捐米を出して安賣する方法を取る者あり。

○廣島縣　備後國惠蘇郡高野山村地方は、貧民救助法行はれ、且つ山野に木の芽、山ぶき、山の芋等を得たれば蘇生の思を爲すもの多きに至り、廣島市にも多少の貧民救助あるも他地方の如き慘狀を見ず。

○山口縣　長門國山口町の極貧者は其筋より男は日割三合女は日割二合七十歲以上は男女共に同しく五合、小兒は男女共一ヶ年七斗の玄米を給與することとしたるが、去月中旬は全町にて十五名の外は之を受くるものなかりき、先つ以て幸運の地と云ふべし、

○兵庫縣　兵庫の神戶邊は定住の貧民多少あるも、昨今特に目立つもの割合に少なし、飾磨郡邊は田螺を拾ふて食とし來りしが田螺盡きて干菜に糖を混じて常食とするものあり、同郡邊は縣廳よりの備荒貯蓄金にて露命を繫き田螺を姬路市にひさぐ、右の收入僅かに三錢に過ぎず。

○奈良縣　「近頃物價騰貴貧民の困難名狀すべからず、當局者は注意せよ、不日暴動あることを、出張官吏は南京米を食し魚類は一切食せさると、官吏は職務を重せざると、妻は持たざると」云々の貼紙を奈良市內に張出せしものありしが、別

に暴動もなくして今日に至れり。

○鳥取縣　因伯國は貧民救助論昨今甚だ盛んにして、鳥取市の有志者は貧民救助正義團なる團躰を設け正米を廉價に發賣して救助するあり地方に至れば夜中隊を組んで乞食に廻る所あり、松の皮を粉末にして餅に製して食ふあり、燒酎粕を食て飢餓を凌ぐ所あり、斯かれば竊盜、放火の流行も亦甚だし。本月初めの調査によれば鳥取市の貧民にて救濟さるべきものは千八百十八戶、人口五千七百十八人なりき、前記正義團が十數日間に賣下げたる米は二十九石七斗七升餘にて其人數は九千九百六人なりき、市參事會を始めとして夫々救助に奔走す。因に云ふ正義團の賣下げたる米は三錢下げにて、一升十三錢五厘程なり。

○島根縣　石見國大原郡海潮村に於ては各自應分の義捐を爲して貧民を救助し來りしが、左の如き規約を結びて確く遵守することとせり、

一各其の分を守り細民にして頭分同樣の風を成し世間に出づ可からざる事一男女とも衣服は木綿物に限り絹物は一切用ゆるべからざること一、帽子、足袋洋傘等を用ゆるべからざること一、親類出入の際一切土產物等に冗費を用ひざること一、來客の爲め別に魚類を購入せざること一、學校通學の兒童は弁當ば農家常用の混飯を用ひ且つ日傘マントを用ゆべからざること一、其他一切驕奢に關する事を成すべからざること

又、隱岐國能義郡にては細民救濟の方法として左如く實行することと定めたり

小作人の赤貧者に對し地主より作飯米と稱し作地一反步に付現米凡一斗を貸與し收獲季に至り返付せしむ、職業を失へし細民をして草鞋を造らしめ民產上位のものをして普通代價より高くして之を購求せしむ

松江市の如きは貧民中戶を閉ぢて呻吟する者多く、同市の財產家十六名は細民三千人を養ひ又支那米を實費にて二ヶ月間賣出したる等、各地共に救助法を講じつゝあり。中國にては北地を以て最とすべし。赤崎村窮民の副食物は、芟、ホーコ、藤の葉、ヒコの芽、山吹の葉、サンキライの葉、土手ウツギの葉、山牛蒡、指蔓の葉等なり。而して鼠賊各所に徘徊し油斷ならぬ所あり。本州西區中、島根、鳥取の二縣を以て最とすべし、大阪に至りては定住の貧民窟あれば、其困難するもの多きは云ふまでもなし、京都は未だ困窮者叫聲のなき所なり。

◎四國區

○愛媛縣　伊豫國松山市の窮民は少しも米を混入せざる玉蜀黍飯を常食とし麥飯を喫するは殆んとなし、菜は野に出てゝアザミ、蓬の葉を摘みてシタシ物となし、貧民中の上等者は支那米に麥又は唐黍を混じて二食、其以下は粉米を粥とし、又唐黍の粉を湯にて攪ね、或は嫁菜又はオコンの葉を摘み來りて食す、周桑郡地方は米麥を食ふもの殆んと皆無の姿にて玉蜀黍を蒸して食餌となすは上等たり、笹の實、摘草等を食ふもの少なからず。松山市は市の吏員始め夫々救助法を行ひつゝあり、先きには東宇和郡にて勤儉規約とて凡て節儉を旨としたる十九條の規定を作りしが、中に小學校生徒の辨當は日々の常食を以てし米飯魚類を携帶せしめざること、放樂芝居は每年部落一回(一日)を過ぐるべからざると且つ又申入と稱し過分の飮食物を振舞ふべからず等の個條もありたり。四國中にては、伊豫を以て最とす、香川縣讃岐、德島阿波、何れも相應の工事ありて、困難の聲を聞かず、近頃高知市會は貧民救助金支出を協議するに至れり。

◎九州區

○大分縣　豐前國鶴崎町にては窮民四名餓死せるあり、速見郡別府地方には三人の餓死者あり、大分縣には夜に乘じて他家の米の磨汁を貰ひ來りて涌かし飮むもあり、門司港邊にては、ツワブキ、ギシギシ、山蕗、などを取りて食するもの多く

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

米飯を喫するもの甚た少なき姿にて何れも粥を啜るなり副食物は鹽と豆腐糟等とす、又金穀を義捐して救助を企つるものも出て來れり。

○福岡縣　浮羽郡の一地方には山に入りて蕗蕨蓬なとを取りて食料とするものあり

九州にては大分を以て最とす、福岡の如きも一部に止まり他の長崎、熊本、佐賀、鹿兒島等は殆んと聞く所なし、宮崎は多少有之も他に比すれは徼々として晨星の如し、

○北海道　函館に多少有之と雖も小數なり、札幌に至りては函館よりも少なく。小樽も亦甚しきとなく、概して好運の姿あり。

以上は、悉く最近の事實にして、之を通覽すれば我邦目下の窮民の困却する所は、東北地方と本州中區は第一位にあり、九州と四國の過半は好況にして、就中九州は大分縣の一部を除きて他は何れも景氣よろしき者あり、而して越後、信濃、山梨、秋田、山形等、の困難せるは、一昨年來米作凶荒にて水害と虫害とありしか爲めなり、海岸地方にて目下困窮せる米作の關係もあれども、不漁と物價騰貴は最大原因なり、伊豫の如き工業として特に勞働を要すべき者なきは其因の一なるべく、島根、鳥取は米作上より來れる所、關西地方が何れも其程度淺きは工業上の勞働便宜多きによる、又關東の甚たしき聲なきは昨年の米作よろしかりしが爲め、而かも物價騰貴は漸次彼等を困めんとするなり。余は詳細に各地方窮民の狀態と其由來と其善後策に就て大に論せんと欲すれども、紙數限りあれば、暫らく擱筆す、貧民問題は實に刻下忽にすへからざるもの、世人唯た空理虚嘆に奔りて此の如き實際の問題を輕視するは嘆すべし

〔六月十三日於觀潮庵〕

◎鬼貫全集　大野酒竹編

時文

◎續氷川清話　　鐵華書院版

諸新聞雜誌に掲載せられたるのものを巧みに編輯し、玆に續海舟清話の出版あり故に新らしきものは少なけれども、同好の士の爲めには頗ぶる便利なり。就中、卷末に附したる、海舟先生履歴の片話は蓋し未だ他の紙上に掲げられざりしもの歟。皆これ先生言動の一班を示し、人をして神采を推察するとを得せしむ。夫れ、一代泰斗の此の老先生に聞がんとするもの漸やく增加し來るは、幸か不幸か。古人曰く時艱にして偉人を懷ふと、吾輩は寧ろ時勢の不可なるとを哀しむもの也。

◎トーマス カーラエル英雄論　　土井晩翠譯　春陽堂版

飜譯は容易の事業に非ず。其困難なるは原作するよりも優りて、而して原作者に向つて、尊敬の念を呈せんとせば、飜譯の筆は、漫に之を下すを得ず。多くの飜譯の、原文の筆勢甚だしきは含意を銷滅するものとなり、又上々出來の飜譯と雖も、多くは原文を味はざるものには、了解し難きものとなるなり。特にカーライルの文の如きは、之を邦文にうつさんと最も難し。其英雄崇拜論の如きは、彼が作中の最易なるものなりと雖も、既に二三の之が飜譯出てたれども、素より見るに足らざるものなり。爰に彼英雄論を譯す、この原文は邦人いやしくも英語を解するものゝ必ずや一度は通讀する處のものなるに、今其飜譯を示すもの、蓋し其抱負の存する處知るべし。之を見るに、文字に於て、成べく原文に接せんとを勉めて、甚だ勉めたりと雖も、之を讀んで、誰かカーライルが噴火山的の意氣筆鋒を察するとを得んや。而も亦原文を讀まずんば、此飜譯は即ち了解に難きもの多からん。譯者の意蓋し、原作を讀む者に向つて、飜譯の伎倆を示さんとするものなるべし、而し、飜譯ものとしての價値より見れば、必ずや上乘の出來なるとは信ずるに足るなり。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

◎鬼貫全集　大野洒竹編　同　上

これはこれ、松尾芭蕉さ相並んで、談林派を排して、幽玄なる俳偕の詩天地に逍遙したる俳壇の奇傑伊丹の上島鬼貫の俳偕上の遺品を網羅したるものなり。蕪村鬼貫句選に序して五子（其角、嵐雪、葉堂、去來、鬼貫）の風韻を知らざるものは、共に俳偕を語るべからずさ。俳偕を語らんもの、必ずや此集を讀むべきなり。

◎故ウイラード孃小傳　片山潜植松考昭合著　日本婦人矯風會版

曩に病沒したる故ウイラードは、十九世紀に於て、最も傳ふべき人傑の一なり。いま婦人矯風會員等、其小傳を出版す。この小冊子素より以て孃が六十年の生涯を盡すさはいひ難きも、本邦人にこの女丈夫を紹介するには、適當なる著述なるべし。

◎賴山陽及其時代　故思軒居士遺著　民友社版

故森田思軒氏、民友社十二文豪叢書中に、賴山陽をものするの約ありしが、未だ果さすして逝くや、德富蘇峯山路愛山の二氏は、かつて思軒氏が、國民の友紙上に於て、愛山氏さ、互に論陣を張りたる山陽に關する記事評論を校訂して、今之を出版す。附するまた研堂、愛山、蘇峯諸氏山陽に關する文を載す。抑も賴山陽の大事業たり、また其名の後に傳ふる所以のものは、其日本外史に在り、吾人は思軒氏に於て、其外史論に待つ處多くして、之を見るに、文章の論は之を聞く、されど、史學上の價値に至りては、頗る不充分なるものあるを遺憾さす。吾人は山陽を見る、一箇幕末の慷慨家さなす、未だ史家を以て彼に多くを許すを能はず、其外史の如きは、漢文に成れる物語軍記を見て史さして、は甚た滿足するを能はず。外史の世に行はれて、後生を益したるは、論を待たず、されど、これさ同時に、外史的眼光を以て、古今の人物を觀察し、其の眞底を穿ち、形に見はれたる事蹟によりて、人物を愛憎するの狹見を與へたるも亦、外史の罪、あづかりて大なり。吾人はこの意を以て山陽に對す、故に山陽の崇拜者たる思軒其他の諸氏の說論に至りては、多少感を同じうせざる處あり。されど此書に至りてはこれ思軒氏の遺篇さして尊敬せざるを得ず。

◎新小說　第三年第七卷　春陽堂版

小說には眉山人の扇巴、藤陰の後譚乙女椿、秋聲の女教師あり、離鋒、時報等例の如し。口繪のコロタイプ版の如きは、裸體嘗を去ると遠からず、これ新著月刊の如くに時好に投ぜんが爲めか、されは小新說の爲に、甚だ取らざる處。

女界文壇雜俎　（本誌〆切まで）

◎女訓さ信仰（三輪田眞佐子）　女子の友第二十三號
◎我那女子風俗の變遷（小杉榲邨）　同
◎不正順なる社會的現象（私生兒論）田中太郎　統計集誌第二百三號
◎家事衞生（中濵東一郎）　大日本婦人教育會雜誌第百四號
◎女學利弊の說（康同薇）　時論第三號
◎小兒養育談（寒澤振作）　太陽第四卷第十二號

人の親のからす追ひけり雀の子
油さし油さしつゝ寐ぬ夜かな　鬼貫
行水のすて處なし虫の聲

片々

◎現今の婦人雜誌　現在（三十一年六月調）我國內にて出版する婦人雜誌の數は、合して十四種なり。其名と性質とを區分すれば左の如し。

◎佛教主義のもの

◎法の母	毎月一回（律宗）	夫人正法會附屬	（東京）
◎花の園生	毎月一回（眞宗）	文明社發行	（同）
◎婦人雜誌	毎月一回（同）	婦人雜誌社發行	（同）
◎反省の鏡	同（同）	興教書院發行	（京都）

◎基督教主義のもの

◎女學雜誌	毎月二回	女學雜誌社發行	（東京）
◎婦人新報	毎月一回	日本婦人矯風會附屬	（同）
◎婦學裏錦	同	正教會女子神學校附屬	（同）
◎女子の友	毎月二回	東洋社發行	（同）
◎女鑑	同	國光社發行	（同）
◎家庭雜誌	毎月一回	民友社發行	（同）
◎女學講義	同	大日本女學會發行	（同）
◎日本の家庭	同	日本の家庭社發行	（同）
◎大日本婦人教育會雜誌	同	同會附屬	（同）
◎大日本私立婦人衞生會雜誌	同	同會附屬	（同）

通計十四種

以上の外、最近に廢刊もしくは休刊となりて、現に發行せざるものに、家庭新聞、婦人弘道叢誌の二あり。後者は大日本弘道叢誌に合併したるなり。

◎女子と政談　議會にて確定となりし工藤行幹氏外四名提出の集會政社法改正法律案によれば、女子が政談に推さはる事は毫も禁止にあらざるにより、若し此の法案にして公布せらるゝに至らん乎、十年前の女壯士の時代は再び現出するに至る可し、現に角女權問題の上に少なからぬ影響を與ふる事といふべし。（國民新聞）

◎澎湖島通信　に曰く土人女學校遊廓指定地に然も、現に貸座數營業をなしつゝあるものに立退を命じ、土人の女學校を設置せられたるが、所謂孟母三遷の故事もあるものを左りとはく（經濟日報）

◎素人教育家、學者教育家　京華日報あり、日本女子大學校の事を記して素人教育家は之を贊成し、學者教育家は大抵贊成せず云々と。學者教育家とは若溪派、大學派等の官的教育家の事をいふものなり。而して此の日報に筆を採るものは、日本主義もしくは教育時論等に緣故多き所謂學者先生なり。自ら學者と思へるものなり。吁其傲慢や厭ふべきかな。吁、知らずや自ら學者なりと思へる今の教育家の如きは、到底、教育の何ものたるを知るものに非ず、又能く國民を教育し、社會の根源を清くするに堪へざるものなるを。

◎女生徒の遊戲　新潟縣師範學校の演劇事件の噂いまだ收まらざるに、此程仙臺高等女學校の地久節祝賀會に女生徒活人形を演じたりとて、また惡口するものあり。これしきの事、何ぞいふに足らんや。學校生涯の快樂を與ふが爲めには、此等罪なき遊戲を許すも、實に不可なし。これが何の女德に關すべきや。女德とは無邪氣なる遊戲を以てきづゝけらるべきものに非ず。兩手を膝になき、キチンとして人形樣のやうにせれば、女德は修まらぬものなど思ふは可笑し。然るに、世の中の男子等、女德々々といひては、あれよこれよと女の落度の穿鑿に從事し、少しにても目新しきとなれば、ヮイくと騷き、而して女學生は遊戲も出來ぬものゝやうに責めたてる、膽玉の小ざゝ加減濟くに堪へたり。かゝるものは外國の女學生などを見ば、氣絕せんのみ。

◉日本の新聞雜誌　の總數は四月末現在七百七十五種、此內露新聞三百十一種、雜誌四百六十四種、內有保證金新聞百七十六、同雜誌百七十七、無保證金新聞百三十五、同雜誌二百八十七種なり。

◎讚州高松　の千金丹賣が四月中に全國に派出したる行商人は部長二百四十名、賣子二千四百六十人。

◉倫敦某寶石商　の語る處によれば、流行社會の貴婦人が一年間に裝飾の爲買入るゝ寶石類の代價は一人に付、少くとも、五千磅乃至六千磅（五萬圓乃至六萬圓）なりといふ。因に云、曾て下田歌子女史歐米漫遊の途次英國女皇に拜謁したる節、同時に拜謁仰付けられし外國貴婦人の衣服は一着少くとも一万弗を下らざるもののみなりしと。英國既に至り、米國婦人の奢りや思ふべきなり。凡そ夜會服などいへば、何千弗を價いしたるものにもせよ、三回以上着用するは耻らなりと。

◎佛國　パリーの婦人社會にては、生ける錢龜の甲に寶石を鏤め、純金の鎖にて、之を衣服にブラ下くるを流行すと。而して其無飾の龜の子一疋の價七八磅なりといふ。

◎三ダブリュース、日本居留地外國人は三のダブリュー（W）の爲に擒となれり。即ち酒（wine）女（woman）煙草（weed）の三なり。

◎支那婦人の女學論　支那開化黨の名士康有爲の女同薇、米國に遊んで學成り歸り、よつて上海に女學校を起すの計畫あり。女史近頃「女學利弊の說」をなす。纏足の不可なるを論じ、支那女風の改革をなさんには、徧く小學校を各鄕に立て、擧國の女をして粗ぼ禮義を知り、略ぼ書札に通せしむ。然る後中學校を各邑に立て、有用の學を講究し、大に邪僻の習を去らしむ。然る後特に大學校を首府に立て、其淑秀をして之に入らしめ、其材藝心思を磨めしめ、務めて其權を平等にして、其力を狂ぐるなからしむ、則ち規模大に立つて、才德の女彬々として輩出せん、

二億人沈埋の囚獄を起し、千餘年無理の陋風を革め、我聖教を昌んにし、我大同を復すべし、嗟夫れ中國よ其れ塞才塗智して自から窮する勿れと。

◎近來の名歌(?)國文大家某洋行の途に上る、國文大家の面々其他爲に送別會を開く、席上送歌多し。中に「ともゑ」の里にゆくを送りて云々とて、

玉ちほふ神のみくにを忘るなよほとけの國に君はゆくとも

といふがあり、佛國がほとけの國となり、ともゑの里とは巴黎の事よ、又

今よりは大和言葉に入りぬべしとら伏す野山たつゆるぐさと(龍動)子等が紐そだつ(紐育)の市に旅寢していく夜見まさん故里の夢牛の舌べろりん(伯林)かけて馬の耳ふさがる(馬耳塞)滞君はみるらん

などあり。歐洲に虎伏す野山あり、ロンドンに龍ゆるぎ、ニューヨークに紐が育ち、マルセーユに馬の耳ふさがるなど、さて〳〵面白からずや。さらばまた米國はこめの國、普國はおろかな國、獨國はひとり國、以國はもつての國、華盛頓は花さからんやがての里、伯林は伯の林などよむも面白かるべし。

◎裸躰畫　は風俗壞亂なりとて裁判に訴へられしが、此頃の新聞雜誌の挿畫には、裸躰畫よりも上手の醜畫あり、更に又醜穢極まれる小說續出す。文相は寄席の取締を嚴密にせんとすと、さらば又雜誌小說の取締をも嚴密にせざるべからず。文學者輩は、ピユーリタン主義などゝ非難すれども、今の文學美術は、ピユーリタン主義の鐵腕を以て大に打擊を加へざるべからざるなり。文學者輩が、性癖によると、又時好に投ずる筆の爲に、國位民風を攪亂するに任ずべからず。

◎地久節の箏歌　中村秋香氏の作歌にて、山登万和氏の作曲せる地久節箏歌は左の如し。

雲井の秋の宮深く、影あきらかにすむ月の、おほみ光りはうちひさす、都に鄙におしなべて、輝き渡り玉ほこの、道をすやかに照すなり。野にも山にも置きあまる、廣き惠みの白露に、學びの庭の姬松も、月日にはへて生茂り、世のうき波に根をたえて、枯し千草も、花さけり。高き御影を仰きつゝ、今日の御あれを壽けば、箏さる袖に吹添ひて、千代をしらぶる軒の松風。

時報

◎津田、渡邊兩女史の渡米　前號にも旣に報じたるが如く、本月二十日より向ふ八日間、米國コロラド州デンヴアー市に於て、萬國婦人大會を開かるゝに就ては、先般來遊の同會副會長ブリード夫人より大隈伯に、本邦よりも代員を出席せしめては如何との勸告なりしが、伯は之を贊成して、伊藤侯に說きて、二名の婦人を擧げて派遣するとに決し、文部大臣に於て人選の上、急に華族女學校教授兼女子高等師範學校教諭津田梅子及び、華族女學校囑托教授靜修女學校々長渡邊筆子を擧げ、文部省並びに華族女學校より兩女史が私費を以て米國旅行中、米國女子敎育取調を囑托するとの名を以て、兩女史を同大會に出席せしむるとなし、二女史は、旅裝忽々、去る三日午後五時橫濱解纜のタコマ行郵船オリンピア、ロンドン號にて出發せられたり。なほ同會の摸樣に就きては、兩女史より本社へ通信の事承諾なりたれば、必ずや讀者をして翹望の感を治せしむるに足るものあらん。且又兩女史出席を幸ひに、本社よりして、現今我國內に於て發行する凡ての婦人雜誌を一部宛取揃へ、該婦人大會に出品することを依賴したり。

◎貞婦褒賞並に其表彰式　東京麻布區本村町の平井伊兵衞妻イシの貞烈なるを、先頃市內の二三新聞に揭載されたるが、去る五月廿八日岡部東京府知事は、左の褒狀並に金員を以て同人の善行を賞したり。

東京市麻布區本村町平井伊兵衞妻

いし

資性溫良良夫の痾に罹るや家計窮厄の中に在りて克く其艱苦に堪へ日夜業を勵み傍ら看護に誠を盡すこと多年一日の如し洵に奇特とす依て爲其賞金一圓五十錢下賜す

明治三十一年五月廿八日　　東京府知事正四位子爵　岡部　長職

右に就いては、麻布區敎育會主となり、また彼高崎正風男等の主唱にかゝる彰善會之を佐けて、本月十日、同區南山小學校に於て、同人の表彰式を擧行する由。區內有志千餘名及び彰善會員を初め、南山、麻布、飯倉の各小學校生徒等之に列し、來會者には、「貞」の字を打出したる菓子を供する由。尙又彰善會長高崎男等も之に出席し、同男及宮中女官方の贊歌の披露あるべく、且華族女學校教師阪正臣氏の新作麻布貞婦琵琶の歌を、薩摩琵琶に合せて、西幸吉氏之を演奏する由。なほ又華族女學校の生徒七十餘名はイシの德行に感じて、各々歌を詠じ、短册に書して、同人に贈りたりといふ。

◎酒田高等女學校開校式　羽前酒田に新設せられたる酒田女學校にては、五月廿八日を以て、開校の盛典を擧げたり。入學生徒旣に三百名といふ。

◎生徒保護婦人會　遠江國志田郡木間塚小學校にては、夙に子女敎育上に注意する處ありて、生徒保護婦人會なるものを組織するに至り、去る四月廿九日を以て開會せしに、來會婦人三百二十餘名なりしが、同學校長はじめ、種々有意なる訪話ありしといふ。

◎廣島英和女學校　は本學年より生徒大に增加し目下の生徒數は高等科本科豫科にて八十八人、小學校幼稚園にて百三十人、之を一昨年頃に比すれば殆んど倍數となれり又同校にては今回神戶女學院卒業生兆木セイ女及同校の卒業生篠原ヒサ女を增聘し又幼稚園にては助手八人の增加をなせりといふ。

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

◎女子高等師範學校　同校の新學期假入學生徒は文科二十九名、理科十六名にして、これを府縣別にすれば左の如し。

▲文科

京都　一　和歌山　一　鳥取　一　滋賀　一　熊本　四　宮城　二
高知　二　長野　二　山形　一　香川　四　富山　一　鹿兒島　一
新潟　一　德島　一　大阪　二　北海道　一　長崎　一　福井　一
石川　一　（以上十九府縣二十九名）

▲理科

石川　一　大阪　一　福岡　一　熊本　一　宮城　一　和歌山　一
山梨　三　香川　一　福島　一　秋田　一　富山　二　福井　一
（以上十二府縣十六名）

なほ又同校近況を聞くに、　高等師範學校教授兼女子高等師範學校教授たりし岩川友太郎氏は、今般、專任女子高等師範學校教授に、東京帝國大學文科大學教授中島力造氏は兼任女子高等師範學校教授に、理學士西松次郎氏は同理科の授業を囑託せられ、高等師範學校教授波多野貞之助氏は同校教授兼任に、又白坂榮彥氏へは同校歷史中本邦法制の授業を囑託し、渡邊幽香女史には同校圖畫の授業を囑託、神田順子森本義子の二氏に同校家事專修科の授業を囑託、坪內きく子稻石泰子の二氏に同校附屬幼稚園幼兒の保育を囑託、塚本はま子岡田みつ子の二氏は同校助敎諭に、林ふみ子は同校保姆に任ぜられ、非職同校敎諭武村千佐子同校保姆吉田幸子の二氏は依願免官に、囑託西川きよ子文學士幣原坦同宮本正貫の二氏は依願解囑となりしと云ふ。

◎女生徒六名の溺死　新潟縣中頸城郡關山尋常小學校教員某は、此程女生徒を引卒して、遠足運動の爲め、長野縣上水內郡信濃尻村大字野尻なる芙蓉湖に赴きたるに如何なる仔細にてか其內六名溺死したる旨同縣廳に急報ありし由。(時事新報)

◎高等女學校令　兼て噂ありし、高等女學校令の事は、いよ〳〵文部省に於て發布することゝなり、帝國議會閉會後、高等教育會議を招集して、中學校令、實業學校と共に一應同會議に附すべしといふ。

◎東京美以婦人演藝會　六月四日神田錦輝館に於て、同會開會、來會者三百名以上ありしよし。

◎角筈衛生園國府津別園　角筈衛生園にては此度別園を相州國府津に設けたり。其園規は左の如し。

一別園は患者の種類に依り藥湯及び海水浴の設けあり
一別園は各自其の主治醫の診察治療を受くるは隨意たるべし
一別園は醫療看護は勿論身體の榮養恢復に必要なるものは飲食日光空氣其他精神の安養快樂一つも洩す事なし
一別園は總て婦人を以て組織し姆姉方指添ひの勞を省かん爲め懇篤丁寧嚴肅に監督す故に貴婦人令孃も單身轉地療養を得らるゝものとす
一別園は醫著の冗費を省きて衛生の實用を旨とし左の入園料の外一切の費用を要せず

一甲一日　壹圓
一乙一日　七十錢

一都合により常分之中肺病患者は謝絶す

◉海外女界

◎獨逸國の女子高等教育　普魯西亞政府は實驗の爲めに、從來大學入學の豫科として兒童の爲めに設けたる規程と同一の敎程を女子にも許可することに決したり。即ち四月一日を以て第一高等學校ギムナシウムは帝都伯林に亞ぎて必要なるブレスラウ市に於て開かれたり、如此學校設立の必要は一般に認識せられたるなれば、向後該市の例に從ひ、同樣の學校は續々設立せらるゝに至るべし。此女子高等學校は官立にあらずして、實に市立なれども、無論政府の許可を得、且つ文部大臣の認可したる者なれば至つて好況なりと云ふ。次に目下敎育界の一疑問にして今や將に落着せんとするものは、婦人をして獨逸大學校に入學することを認可するや否やの一問なり。今日迄は二個の原因（第一、女子は高等學校に於ける敎育の缺乏、第二大學教授の多數は女子入學に反對なること）により、女子は大學に入學することは禁ぜられたり。然れども今や、政府は女子の爲めに高等學校を設け、高等教育を授くることに決したれば、勿論大學教育をも受しむべき恩典に浴せしめざる可らず。之を要するに女子が男子と等しく大學教育の利益を享有することを得るに至るは、當に近きに在るや瞭々乎として明なり云々。(日本)

◎ウエレスレー女子大學　動物學の教授ウイルコックス孃は、二年間獨乙瑞西に學び、此度チユリツヒ大學にて哲學博士の學位を受けたり。

◎女子銀行頭取　米國バルチモーアのトーム夫人といへるは、此程メリーランド國立銀行の頭取に擧げられたり。女子の國立銀行頭取たる、古今蓋し之を以て第一となすべきか。同夫人は、此國立銀行の創立なる故トーム氏の未亡人にして、トーム氏といへるは、財產家とし、又慈善家として、名高かりし人なりとぞ。

◎女子の鐵道役員　米國バルチモーア及オハイオ鐵道會社にては停車驛の荷物及切符掛として十八人の女子を使用せるに、其成績頗るよろしく、會社にも又乘客にも滿足を與へ、此女子等來りてより停車場內は、淸潔に且整頓するを得たりといふ。

◎米國北西婦人長老教會傳道會社　の二十七年回は四月下旬ミチアポリスに於て開會せられしに、各州よりの代表議員の婦人三百名に達したりといふ。

東京裁縫女學校長 渡邊辰五郎先生著

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

東京裁縫女學校長 渡邊辰五郎先生著

裁縫教授書

全部三冊　定價金一圓　郵税金八錢

渡邊先生の裁縫に於けるや技術に長じ、理論に精しく、殊に其教授法の巧妙なるに至りては、餘人の企て及ぶ能はざる處なり。此書は即ち其特長の教授法によりて、諸般の裁縫技を親切叮嚀に説明せられたるものなれば主婦は素より女學生も亦裁縫を學ぶに當りて、必ずや坐右此書を備ふるの要あるなり。

大取次　東京巣鴨村庚申塚　女學雜誌社

●切拔通信の要旨

●切拔通信をなすべき科目は農工商業政治法律外交貿易政黨倶樂部教育宗教歴史詩歌運輸交通土木建築鑛業山林美術技藝各人身上に關する事等凡そ諸新聞紙上掲載の者は小說廣告に至るまで其委托に應じ精閲遺漏なく勉めて配達を迅速にして以て愛讀者の便益を期す

東京市京橋區釆女町廿一番地
東京通信社附属

新聞切拔通信部

●切拔手數料大要

●一己の身上に止まる通信は一ヶ月金貳拾錢とし●一事業又は一事物に止まる通信は一ヶ月金參拾錢より金五拾錢まで●會社又は一團體の全般に關する通信は壹ヶ月金五拾錢より金壹圓まで●前記の事項と雖ども關係の範圍廣く日々記事の多數なるもの等は臨機の契約を爲すことあるべし●月數に拘はらず件數にて委托せらるゝものは東京は十件に付金貳拾錢地方は郵税を併せ金參拾五錢とす尤も細事項は總て號外として件數に算入せず●本社切拔通信規則書御入用の方は御通知次第郵送すべし

●白國ドラブレイ氏著　●英國ボーラード氏譯　●田口卯吉君序　●牧山耕平君重譯

●第一高等學校教科用

訂正再版 經濟學（肖像並小傳入）

四六判五百餘頁
布表紙製本
價郵税共八十錢

此書は新派經濟學者中別に一旗幟を建たる碩學ド、ラブレイ氏が普通經濟學の體例を革新し一機軸を出したる新著にして其主義は道德と實踐爲政の寛公を旨とし以て利用厚生の道を講する者にして泰西の學校は過半此書を其教科書に用ひ居ると云ふ以て其良書たるを知るべし、今や再版に臨み大いに訂正を加へ更に一層の光彩を添へたり、江湖斯學篤志の諸君請ふ愛讀あらんことを

發行所　東京京橋區彌左衛門町　合名會社 經濟雜誌社

賣捌所　東京。丸善、小林、東京堂、中西屋、團々社、●大阪。岡島、梅原、松村●京都。大黒屋、東枝、其他書肆

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

越後西生寺よりの御禮狀

前畧す當村信徒高濱長七長女本年十九歳なる者長々惡血病の爲劇苦見るに難忍兩親共悲歎罷在候趣弊老聞及び氣の毒に堪ず兼て教報上に貴店の大法湯効能諸藥に勝れ候旨一覽候に付先月中三周間分御請求の上服藥致させ候處即効神の如く長々の難病故近郷の醫藥をからし困却の重病九分通り全治實に本人初め兩親の喜ひ言に盡し難く就ては貧家の者故藥代等取替重ねて今三廻服藥致させ度候に付右御願申上候外に同村信徒中高總清七娘是亦惡血病故是れへ三廻都合六廻大至急御送被下度即ち代金二圓〇八錢送金仕候
病人幷兩親より代て弊老に宜敷御禮申上呉候樣傳言に御座候

弘智法印御入定の寺

越後國三島郡野積村　西生寺　拜

大法湯本家京都五條橋通御幸町西入山本治兵衞殿

産後血の道にも大効驚く

謹呈大法湯の大効には驚き申候愚妻産後血逆上致し正氣を失ひ頭痛目くらみ等致し實に藥も澤山服用致させ候得共外の藥は功なし大法湯日々一貼づゝ服して十五日頃目には無事壯健の身と相成申候右他の難義なる病症の人へ御知せ可被下候

紀伊國海草郡加茂村大字下　川島辯藏

大法湯本家　京都五條通御幸町西入　山本治兵衞殿

▲請賣希望の方は金五圓以上御送金の上御申込被下候得ば大法湯は定價より三割引の上施藥相添永遠の御所得と相成候樣親切に御取斗ひ可申し實に婦人方適當の商業也

右服用したる御方より禮狀を

送らるゝ如く大法湯は子宮病血の道より發る病ならどんな込入た難症でも如何程重き病症でも凡よいといふ程の事は皆仕盡して効見ゑず本人も親類も治らぬ病と覺悟して五年十年の年月を送る人等に殊の外効能あり故に當今の婦人方は大法湯を呑ぬ人なく呑て六ッヶ敷痼疾か安々全快した計か常の持病迄も忘れたと喜だ婦人澤山ありこんな正價の話を聞たら呑すに居れまい呑さすにも過られまい呑たら達者になる者を知す呑ずに病む人こそ氣の毒なれ手落ちなれ

大法湯は子宮病血の道産前産後の長き患ひ子宮冷込月經不順下腹腰引つり痛み手足だるく顔色青く痩せ衰へ癇高く息切れ動氣し白血長血帶下消渇久しく治せず浮腫逆上頭痛等總て婦人の病ならどんな衰弱したる重病でも必ず治る不思議の妙藥なり

大法湯 定價…十廻分金三圓…一廻分金三拾五錢
三廻分金壹圓…三日分金十五錢

遠國の小包料六廻迄八錢なり爲換は五條局宛

大法湯本家　京都五條通御幸町西入　山本治兵衞

明治女學校受捐金廣告

金五十圓也　函館　泰慶治殿
金廿五圓也　同　渡邊熊四郎殿
金廿五圓也　同　平田文右衛門殿
金二十圓也　同　高山長幸殿
金二十圓也　同　莊司平吉殿
金二十圓也　同　内野高吉殿
金二十圓也　同　相馬哲平殿
金二十圓也　同　金澤彦作殿
金十五圓也　同　加藤廣說殿
金十五圓也　同　山尾福三殿
金十五圓也　同　今井市右衛門殿
金十五圓也　同　齋藤又右衛門殿
金十圓也　同　荒木商三郎殿
金十圓也　同　田中正右衛門殿
金十圓也　同　遠藤吉平殿
金十圓也　同　渡邊佐兵衛殿
金十圓也　同　横尾平太殿
金十圓也　同　畑野みさ殿

博愛社廣告

殘寒尙未去候處諸兄姉在主益御多祥奉大賀候却說生等が今回卑懷を開陳して同情を仰がんとする一事は諸兄姉が既に幾多の厚き同情と祈禱を與へられたる城北大仁村博愛社家屋建築に關して力を副へられんことに御座候抑同社は今を去ること九年前故小橋勝之助氏時事に慨し主キリストの愛に勵され決然一切の財産を捧げて播州の地に孤兒實業教育の基を立てられ蒲柳の身を以て自ら困難の衝に當り專心一意主の榮光と同胞可憐の孤兒の爲に盡され事將に緒に就かんとする際天意測り難く氏は遂に天父の召を蒙り幾多最愛の孤兒と有望の事業を惠ある天父の聖手に委ね後事を同志の友林歌子姉實弟實之助氏に囑し靜に永遠の安息に入られしより茲に一大試錬は此社の運上に來し親族の故障は終に一切の財産を社より取去り殘れる者は孤兒の一小群と先人の厚き祈のみとなり危機一髮社運の存亡に際し祈の應答は與へられ阿波松之助兄の義俠同情の助に依り將來を主の手に任せ纖弱の林姉年少の社長實之助氏が他の一小群を伴ひて大坂の地に移住する事となり阿波氏私宅の一部を割て社宅とせられたり是れ實に現今の博愛社にして今を去ること五年前三月十三日の事なりと云ふ爾來各種の困難は社運の上に襲ひ來りしも惠ある天父は常に之を助け玉ひ今や二十余の健兒が月を踏で耕し星を戴て歸り自營の道將に遠からずして立たんとするの幸運に導き玉へり生等は今昔の感に打たれ轉た大能の御業に感ぜざるを得ざる次第に候此際焦眉の急に迫れるものは此一家族が住ふべき適當なる家屋を要する事に候然るに至愛の天父は敷地千貳百坪を與へられ家屋材料をも賜らんとし今や敷地築立費三百圓と建築の費用を要するのみとなれり生等親しく現在の實狀を視家屋建築の急を要することを感し終に不肖を顧みず茲に兄弟姉妹の同情を仰ぎ此神聖なる神の聖業の爲に助力を希ふことゝ相成り申候是一には義人の遺志を繼けゝ犧牲獻身の兄弟姉妹の志を全ふせしめん爲め一には我等が主の聖前に當然の義務を盡し度き一念に外ならず候幸に微志の存する所を察せられ多少を論ぜず淨財を獻じ玉はん事切願に不堪候

追て義金は西成郡鷺洲村大字大仁博愛社又は最寄發起人の中へ御通知被下候はゞ市內は取集人差出可申候
爲替は川口郵便支局に御取組相願候

明治三十一年三月

發起人

西區薩摩堀西の丁十四番屋敷　近重利澄
川口居留地二十一番　名出保太郎
西區松島町一丁目七十九番屋敷　星野定助
東區船越町一丁目四十四番屋敷　佐藤一造
川口居留地八番バルナバ病院　林虎之助

博愛社建築及び敷地築立の見積

敷地築立三百坪　此豫算三百圓
建築總費額豫算二千圓
此の內へ古家屋一棟（價格大凡一千圓）既に寄附豫約整へり
以上敷地立費用三百圓幷に家屋建築の不足金一千圓
合計一千三百圓大方有志の義捐同情を仰ぐ

明治廿五年三月十五日遞信省認可

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

Digitized by Google

Original from
CORNELL UNIVERSITY